

Ⅱ 学校支援地域本部 の実践事例

Ⅱ 学校支援地域本部の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

(Ⅰ) 学校支援地域本部「いじめ対応型」・・・・・・・・ 19

◆平成26年度「いじめ対応型」本部一覧	19
◇大津市	20
◇彦根市	29
◇近江八幡市	37
◇湖南市	41

(Ⅱ) 学校支援地域本部「従来型」・・・・・・・・ 48

◆平成26年度「従来型」本部一覧	48
◇彦根市	49
◇近江八幡市	67
◇栗東市	87
◇湖南市	89
◇東近江市	96
◇米原市	109
◇竜王町	111
◇多賀町	113

平成26年度 滋賀県学校支援地域本部一覧（いじめ対応型） 4市17本部

No	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
1	大津市	葛川小学校・地域コーディネート本部	葛川小学校	0	7	3
			葛川中学校			
		真野北小学校・地域コーディネート本部	真野北小学校			
		仰木の里小学校・地域コーディネート本部	仰木の里小学校			
		石山小学校・地域コーディネート本部	石山小学校			
		仰木中学校・地域コーディネート本部	仰木中学校			
			仰木の里東小学校			
		田上中学校・地域コーディネート本部	田上中学校			
			田上小学校			
上田上小学校						
2	彦根市	中央中学校区支援地域本部	中央中学校	6	5	2
			平田小学校			
			金城小学校			
			平田幼稚園			
			金城幼稚園			
		稲枝中学校区支援地域本部	稲枝中学校			
			稲枝東小学校			
			稲枝西小学校			
			稲枝北小学校			
			稲枝東幼稚園			
			みずぼ保育園			
			稲枝ふたば保育園			
			ことぶき保育園			
3	近江八幡市	桐原小学校支援地域本部	桐原小学校	0	2	1
		安土小学校支援地域本部	安土小学校			
		八幡中学校支援地域本部	八幡中学校			
4	湖南市	岩根小学校支援地域本部	岩根小学校	0	6	0
		あすなる応援団	菩提寺北小学校			
		菩提を育てる会	菩提寺小学校			
		みとっこ応援団	水戸小学校			
		みなみっこ応援団	石部南小学校			
		石部小学校 学校応援団	石部小学校			
合 計				6	20	6
				32		

■ 大津市における学校・地域コーディネーター本部事業の取組

■ めざす姿

- ・学校と家庭、地域のつながりを強め、地域ぐるみで子どもを見守り育てようとする機運を高める。
- ・学校支援に多くの方に参画していただき、いじめの未然防止、早期発見を図る。

■ 本年度の活動

今年度は6本部10校で、昨年度よりも4校増やして事業を実施した。

昨年度から開始された事業であるが、今年度はコーディネーター同士の連携を図るため、5月末に「地域コーディネーター連絡会」を実施した。6本部のコーディネーターが日々の実践や成果、課題を出し合い、解決に向けて話し合ったり意見交換をしたりした。また、事業に対する自己評価も行い、年度末に振り返りができるようにした。

各本部では、ボランティアリストの作成をさらに充実させ、定期的に支援活動、学習支援等の取り組みを行う学校もあった。また、ボランティアに学校支援をしていただくだけでなく、子どもたちが地域に出かけて行って、そこで活動する取り組みを行う学校もあった。

■ 本年度の成果

2年目の事業ということでコーディネーターと学校が、お互いに連携して事業を推進していくことができるようになった。

地域ぐるみで子どもを見守り育てる視点からは、地域コーディネーターをはじめボランティアの方々から褒めていただくことで、子どもたちは自信を持って学校生活を送ることができたようである。地域の方が気さくに声をかけてくださることで、自分の居場所が見つかり所属感が生まれ、子ども同士のつながりが強くなる場面が見られた。また、地域の行事へ子どもたちが参加することで、行事に活気が生まれ、地域に歓迎される場面もあった。

いじめ対応という視点では、教師の手が足りていない部分を支援していただくことで、教師の負担軽減につながり子どもと向き合う時間が今以上に確保されると思われる。また、定期的に来校されるボランティアが増え、多くの目で子どもを見守る体制が強化されてきた。ボランティアとの関わりを通して自己肯定感が高まり、いじめの減少につながったと考えられる。

大津市は「いじめ対応型」で事業を実施している。地域コーディネーターと学校とのお互いの協力によって、心を育てること、所属感を持たせること、相手を思いやること、地域の方に感謝することなど、多くの成果を確認することができた。地域ぐるみで子どもを育てることでいじめを減少させることにつながったとも考えられる。

■ 今後の課題

今年度で「いじめ対応型」の事業が終わる。しかし大津市としては来年度以降「従来型」であっても、子どもたちの心を育て、自信を持たせ、地域を愛し誇りに思う子どもを育てていくことに変わりはない。そのためにも、学校・家庭・地域のいずれの場においても、どんな立場であっても子どもたちを地域の力で大切に育てなければならないという共通の理念を持ち続けていくことが課題であると考えている。



【老人ホームを訪問】



【地域の文化祭で手作りコーナーを担当】

「葛川の宝」を学校とつなぎ豊かな心と学びの充実を目指すII（葛川小学校）

■ 大津市
■ 活動名
葛川小学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校
葛川小学校・葛川中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	30人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

学校・地域コーディネート本部事業がはじまり2年目となる。本校は、山間部に立地する2級へき地校で、全校児童15名で人間関係が固定化されがちである。そこで、豊かな心を育み、学習の充実を図るために、校区の自然や地域の方々とふれあいを大切にすような学習や活動を多く取り入れている。この事業が始まったことにより、今まで以上に学校と地域との結びつきは強くなり、学校教育活動だけではなく、子どもたちが地域の中で活動する時にも、あたたかい眼差しや声をかけてもらい、地域の中においても子どもたちは育てられている。学校が地域の灯となり、地域の方々が気軽に学校に足を向けていただけることにより地域の活性化を促す。また極少人数の学校に地域に関わることにより、子どもたちが幅広い人間関係や社会性を育むこともめざしている。

これらの取り組みを通して、自分の大切さとともに他人の大切さに気づき、いじめをしない・許さない雰囲気の醸成につなげたいと考えている。

■ 特徴的な活動内容

学校での学習活動、行事、体験的活動を充実させるため、地域在住の専門家を学校とつなぐコーディネート

＜地域と関わった学習や活動＞

○学校林活動 全校 (5/29 7/24 11/20)

年に3回全校で学校林に行き、地域の森林組合の方々の指導のもとに活動

○地域のゲストティーチャーに学ぶ

3年～6年（社会科 総合的な学習の時間）年間18回

*話を聞く（自然、歴史、仕事、生き方 など） *技を学ぶ

*寺社、店、施設などの案内

○老人クラブとのふれあい

*グランドゴルフ大会（全校）(5/2)

*さつまいもの苗植え、収穫、やきいもパーティー（1、2年）(5/15 10/29 11/4)

*わらぼうし作り（3年～6年）(11/7)

*もちつき（1、2年）(12/2)

○地域清掃（全校）

7月：診療所周辺と葛川少年自然の家の芝生の広場（7/2） 12月：明王院（12/2）

○学校と地域が協力して行う行事

運動会・紅葉祭（文化祭）

■ 実施に当たっての工夫

＜学校から地域への発信＞

○お礼の手紙

話をしてもらったり教えていただいた地域の方に、学んだことや感想を書き綴った子どもたちからの手紙をまとめて届ける。それを読んでいただき、子どもたちの素直な感想を受け止めていただくとともに、学習にどのように関わることができたかを感じ取っていただくことができた。また、これが次回お願いする時のつなぎになっていると考える。

○コーディネーターだより「かけはし」の発行

子どもたちが地域の方々と関わった学習や活動などを、通信にして葛川・久多の全戸に配布した。学習や活動内容とともに子どもたちや地域の方々の様子や言葉などを書き綴ることにより、ふだん学校になかなか来ることのできない方やその時に参加できなかった地域の方々にもその時の様子を知っていただくことができ、学校と地域とが深く関わっていることを感じていただくことができた。

■ 事業の成果

○「地域のゲストティーチャーに学ぶ」学習では、昨年度に引き続き地域の方の知識・経験から体験的に学習活動を行うことができた。また、この取り組みを通して地域の方の学校理解が深まったと考える。

○「学校林活動、老人クラブとのふれあい、地域清掃」等では、活動を重ねていくごとに子どもと関わっていただいた大人の方とのふれあいに温かさが感じられるようになり、子どもの豊かな心の育成の一助となった。

○地域コーディネーターが、教職員に代わって日程調整・内容の検討・準備物などの確認を行ったため、教員が企画をコーディネートするために費やしていた時間を児童とふれあう時間にあてることができた。

■ 事業実施上の課題

○少人数学区のため、人材は限られている。しかし、これまでにゲストティーチャーを依頼した方は今後も引き受けてくださることが多い。築き上げた関係を大切にしていきたい。また、情報網をはり、新たな人材発掘や、近隣学区からの人材発掘も行っていく。活動の記録のデータを活用し、コーディネートを円滑に行い、さらに時間を有効に使うことができるようにする。



【学校林活動：秋】



【6年 夢プロジェクト】

■ 地域の子どもの育ちを支援する（葛川中学校）

■ 大津市
■ 活動名
葛川小学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校
葛川中学校・葛川小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	20 人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

本校は、山間部に立地するへき地校で、全校生徒8名である。生徒たちは、人間関係が固定化されがちで互いに切磋琢磨し合うことが少ない。そこで、豊かな心を育み、多様な考え方に目を向けることができるように、まわりの自然を生かし、地域の方々や他校の生徒と関わるような学習や活動を多く取り入れている。この事業がはじまったことにより、今まで以上に学校と地域との結びつきは強くなり、学校における取り組みの中だけではなく、生徒が地域の中で活動する時にも、あたたかく見守り、声をかけてもらい、一人ひとりの生徒の成長といじめのない仲間づくりのため地域ぐるみで関わっていただいている。本事業では学校が地域の灯となり、地域の方々が気軽に学校に足を向け、生徒に多く関わっていただくことにより地域の活性化を促し、また極少数の学校に地域が関わることにより、思いやりの心や多様な考え方、生き方を知る機会を生徒たちに与えることもめざしている。

■ 特徴的な活動内容

①地域のゲストティーチャーに学ぶ

* 地域の歴史を知る

古地図をもとに 400 年前に起きた地震の話や当時の葛川の様子のお話を聞いた。古地図を差し示しながら当時の様子を話していただいたので、話の内容をより深く理解できた。古地図が大切に保管されており、歴史の深さを感じることができた。

* グランドゴルフ大会

中学1年生とお年寄りのふれあい活動。フェアプレイで真剣に勝負するお年寄りの方々の姿勢に学んだ。同じチーム内で、声をかけてもらったり、ほめてもらったり、また、生徒からお年寄りの方々に質問する場面もあり、互いに交流を深めあうことができた。

②地域清掃（7月：診療所周辺と葛川少年自然の家の芝生広場・12月：明王院）

ふだん、お世話になっている地域のために、少しでも地域を美しくできるような取り組みを行っている。小中学生が2グループに分かれ、中学生をリーダーとして清掃活動を行う。この清掃に関わり、地域の関係者の方にも来ていただき、お話をいただいたり、一緒に活動をしていただいたりすることにより、自分たちも地域の一員であり、地域のために尽くすことのすばらしさを感じることができた。

③学校と地域が協力して行う行事

* K T ふれあいの輪

小学校低学年と地域の方々との料理教室、小学校高学年と中学生による学習発表や懇話会をもつ。特に懇話会では、生徒会が中心となり地域の方々とまじえたグループ討議の内容や方法などを考えている。今年度は2年目の取り組みだが、地域の方々も興味を持ってたくさん参加していただき、生徒たちと本音で語り合ったり、情報を提供したりしていただいた。本年度は地域から募集し決定した「ゆるキャラ」を発表することもできた。



【古地図を使った地震学習】



【 地域清掃 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・生徒会を中心に、地域の役職を持たれている方々に、電話をして参加の呼びかけを行っている。
- ・学校と地域の関わった学習や活動についてデータとして記録に残し、次年度の参考資料とした。

■ 事業の成果

- ・様々な活動を通して地域の方に関わってもらっているという意識が強くなり、活動に集中する生徒が増えた。
- ・地域の方が気さくに声をかけてくださるので、生徒も素直に対応し心の安定を得ていじめのない学校生活を送っている。
- ・集団の中にいるという所属感が強くなり、話題が増え、生徒同士の会話も活発になってきた。
- ・地域の方から学ぶことも多く、教師にとっても良い刺激になっている。

■ 事業実施上の課題

今年度からはじまった事業であり、拠点校の小学校との合同行事や学習については昨年度のコーディネート活動を生かすことができたが、中学校独自の学習や活動については、見通しをもった計画を立てることができにくかった。教科担任制ということもあり、教科や学年ごとの学習内容を把握した上で、年度当初にコーディネート計画を立てなければならない。

中学生を対象としたゲストティーチャーは、高度な話の内容や専門的な技術を求められるので、人口が少なく人材の限られたこの地域だけで探すことは難しいので、近隣学区からの人材発掘をする必要がある。また、各教科の学習内容と地域との接点をもっと探り、地域に求めることのできる教材や学習を深めるための地域の支援を具体的に挙げていかなければならない。

■ 地域に支えられて育つ真野北小学校

■ 大津市
■ 活動名
真野北小学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校
真野北小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	31 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

○地域ぐるみで学校運営を支援する体制の整備

- ・ 専門的な知識や技能を生かした学習支援（「読み聞かせ」「弟子入り体験」「米づくり」「音楽の授業補助」「家庭科の補助」）
- ・ 経験や体験を生かした学習支援（「戦争体験を聞く」「真野北学区の歴史を学ぶ」）
- ・ 人的な支援（登下校時の見守り 交通安全教室の補助 ミニ防犯教室）

○いじめを許さない学校づくり

- ・ 地域人材に教育活動に関わっていただき、第三者の目で子どもたちの様子をとらえていただき、良好な関係を築けていない子どもの発見、指導に生かす。

○地域の教育力の活性化

- ・ 新たな人材の発掘（支所、青少年健全育成学区民会議との連携）
- ・ 子どもの居場所づくりとして実施されている土日対策事業に参加。

■ 特徴的な活動内容

○3年総合的な学習の時間「弟子入り体験（地域の名人から学ぶ）」

子どもたちは、名人の技や手際によさに心を奪われ、意欲的に活動できた。名人から学ぶことを通して、しっかり聞くこと、わからないことは質問することができるようになり、学び方を習得する良い機会となった。また、コミュニケーション能力、礼儀作法を養うことができた。さらに、子どもたちが多様な生き方を見て、好奇心をふくらませたり、あこがれたりすることがキャリア教育にもつながっていくと感じている。

○ミニ防犯教室

スクールガードや青パトあんしん隊などの皆さんの紹介を兼ね、1学期の終業式後にミニ防犯教室を実施している。登下校時の様子から気になっていることを話していただいたり、交通安全や不審者に対する注意をしていただいたりしている。ミニ防犯教室により、見守ってくださっている地域の方とのつながりができた。

○読み聞かせ

火曜日の朝読書の時間に、読み聞かせボランティア「たんぽぽ」の方に読み聞かせをしていただいている。また、高学年対象の「ブックトーク」や低学年対象の「お話し会」も学期に1回実施していただき、本に興味をもたせてもらっている。

■ 実施に当たっての工夫

- 昨年度の実践をもとに、地域コーディネーターから担任に声をかけていただくようにし、地域コーディネーターの存在を意識してもらうようにした。担任には、地域コーディネーターとの打ち合わせを重視してもらい、地域コーディネーターが地域の方と連絡を取り、大まかな内容を決定していただいている。

■ 事業の成果

○子どもたちの変容

- ・ 地域の方が、子どもたちをうまくほめてくださるため、自信をもって活動する子が増え、達成感を味わう子が多くなり、いじめが生まれにくい素地を作ることができた。
- ・ 地域の方に接することで、あいさつ、礼儀作法が良くなった。また、学校外でも声をかけてもらうことも多くなり、顔見知りの関係が広がり、子どもたちの表情が豊かになった。

○学校の変容

- ・ 地域との関わりの中で、教師の人間性も豊かになった（教師も地域の方から学ぶことができた）。
- ・ 地域コーディネーターの存在感が増し、教師が子どもと向き合う時間が確保できた。
- ・ 昨年度の名人の方に、家庭科の補助として参加いただくことができるなど、地域と学校のつながりが深まった。

○地域の変容

- ・ 地域の方から、登下校時の様子、休日の様子などの情報が入ってくることが増え、学校と地域の関係が深まった。

■ 事業実施上の課題

○交通手段の確保

- ・ 家庭科やクラブ活動で地域の方のお力を借りたいが、高齢の方も多く、交通手段がなくバスで来ていただくことになる。多くの方に参加いただけるように、地域の方の交通手段の確保が課題である。

○ネットワークの構築

- ・ 地域の諸団体とのネットワークをつくり、様々な学習に参加していただきやすい体制につなげるのが課題である。



【3年弟子入り体験】



【ミニ防犯教室】

■ 地域とともにある開かれた学校づくりをめざして

■ 大津市
■ 活動名
仰木の里小学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校
仰木の里小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数 (ボランティア登録団体)	89 人 (3団体)
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

いじめ対応型として事業に取り組む上で、多くのボランティアの方々に子どもたちの学習や環境整備に関わる支援をいただく際に、学校内外で子どもたちの様子を見守っていただいている。

■ 特徴的な活動内容

○本校における学校支援の3つの柱は以下のとおりである。

①教科等の学習支援

朝読書における読み聞かせ、3年生の世代間交流・福祉教育、4年生の森林学習、高学年の外国語・ミシン指導、6年生のキャリア教育・戦争体験講話など

②環境整備や図書室運営への支援

花壇の苗の植え替えや「みのりの森」（学校学習林）の剪定・グラウンドの草刈り、学校図書館の貸し出し支援

③安全面、緊急時にかかわる支援

登下校における安全パトロール、あいさつ運動、児童引渡し訓練における支援



【老人会の方々と世代間交流】

■ 実施に当たっての工夫

○PTA・地域・企業の協力を得ながら「にじのはしまつり」を開催（11/26）

昨年度より開催しているPTA主催行事「にじのはしまつり」では、第一部に「京フィル楽団」による音楽鑑賞を行い、第二部では、地域のボランティアや大学生、企業など、さまざまな方々に協力いただき、子どもたちが1日楽しい体験をできるように工夫した。

①成安造形大学の学生による造形遊びお面作りなどの3つのワークショップ

②読み聞かせボランティアの「お話ぼけっと」による読み聞かせと大型ポスターづくり

③大阪ガスによる環境学習メニュー、風力発電の実験や燃料電池づくりなど



【にじのはしまつり】

■ 事業の成果

学習支援をしてくださった方には、後日お礼の手紙を出したり、発表会を参観していただいたりして、交流を図っている。来校される地域の方々が学校へ入りやすくなり、地域でも児童を見守ろうとする機運も高まった。

図書館ボランティアも徐々に増え始め、地域の方が優しく児童に読書の声かけをしてくださっているの、居心地のよい親しみの持てる空間になっている。見守られている安心感が子どもの心を落ち着かせ、いじめをしない集団づくりにつながっている。

仰木中学校も本事業に取り組んでおり地域ぐるみで両校をサポートしていただき、地域と学校の結びつきがより強くなった。また、小・中学校の連携もより深めることができた。

■ 事業実施上の課題

①環境整備の支援ボランティアの拡大と増員を図る組織づくり

環境整備のボランティアの必要性や意義をより深く理解していただくために、年度当初に話し合いを持ち、環境整備ボランティアの組織づくりを計画的に進めることができた。支援ボランティアとして継続的な組織が構築できるかが重要となる。

②教科や体験学習のゲストティーチャーや支援員の活用の充実

本事業の意義を教職員自身ももっと理解し、次年度は、どの教科で地域人材を活用するか、計画的に教育課程の中でしっかり位置づけることが大切である。

③地域コーディネーターの役割

地域の人材をよく知っていただいている地域コーディネーターの存在は非常に大きかった。地域との連携役として、連絡・調整・支援に日々、尽力していただいた。今後も引き続き連携協力をお願いしたい。

■ 地域の教育力を学校に集結！みんなでつくる石山小学校！！

■ 大津市
■ 活動名
石山小学校学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校
石山小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	125 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

いじめ対応型として本事業の取組にあたり、児童のコミュニケーション能力を向上することにより、人間関係の改善を図るとともに、多くの大人の目で児童の変化を捉え、いじめの早期発見、早期対応につなげたいと考えた。

そのために、様々な体験活動や異なる世代の方との交流を意図的に仕組み、思いやりをもち、明るく進んで活動し、地域を愛し、誇りに思う子どもを育てることを活動の重点とした。今年度は、昨年度の反省を生かして、子どもたちに付けたい力を明確にしながら事業を進めた。

■ 特徴的な活動内容

- ・昨年度までは、民生委員児童委員の方との交流である「鯉のぼり交流」、学区民会議の方の企画である「ふれあい交流」など既存の組織やイベント、「昔あそび」等の総合的な学習での交流が中心であった。今年度はさらに、家庭科、書写、ICT 活用など普段の授業での学習支援での連携が深まり、より自然な形で連携が行われた。良い意味での子どもの緊張感・集中力が高まり効果的であった。困ったら教えてもらえるという安心感や大人への信頼感が生まれ学習意欲の向上にもつながった。
- ・また、5年生が地域の方の紹介で、市グランドゴルフ協会の方々の協力を得て、グランドゴルフ大会を行うなど支援団体の広がりも見られ、子どもたちにとっても、グランドゴルフという新しいスポーツに出会い、充実した時間をもつことができた。「丁寧に教えてもらった」「ほかのスポーツは苦手だが、グランドゴルフなら出来そうな気がした。もっとやりたい」「いろんな人と関わり合えるのがうれしい。」といった感想が多く見られた。



【グランドゴルフ（5年生）】

■ 実施に当たっての工夫

- ・昨年度は、本事業が息の長い取組として着実に進めていくことを大切に、できる支援をできるところから行っていった。既存の行事に子どもたちの付けたい力を明確にすることで、活動のねらいやボランティアの方の関わり方を工夫した。
- ・今年度は、一歩進めて、育てたい子どもの姿、付けたい力を明確にし、交流を精選し、必要な場合は新たに交流場面を追加するなど工夫した。



【日常的な支援（家庭科6年）】

■ 事業の成果

- ・付けたい力を明確にし、活動することによりコミュニケーション能力や社会性が培われた。子どもたちも関わってくださった方から褒めてもらう機会が増え、自信を持ち、心の安定を得ることで、いじめをなくす方向につながった。
- ・地域の自然や歴史にかかわることで地域を愛し、誇りに思う心が育ってきた。
- ・教育活動の充実や教育環境整備が進んだ。
- ・幅広いボランティアの方が来校してくださり、地域とのつながりがますます強くなった。

■ 事業実施上の課題

- ・地域の学校として、ともに教育活動をつくりあげていく体制の整備、継続して事業を実施していける仕組み作りをどう行っていくか。
- ・「つなぐ」ことによって生み出される新たな教育効果（成果）を見通しながら、その「つなぎ方」をいかに開発していくかが課題となる。
- ・ボランティア登録されたすべての方がやりがいを感じ、活動を継続していける仕組み作り。
- ・ボランティアの方が教育活動に参加していただく機会が増えたが、まだまだ学校は、地域にむけての情報発信が十分とはいえない状況である。保護者向けの授業参観での公開だけでなく、地域の団体等に働きかけ、参観日を設定するなど、ホームページや地域向けのおたよりなど積極的に学校情報を発信していく必要がある。

■ その他

- ・お世話になった方へ子どもたちから感謝の手紙を贈るなどの取り組みを続けており、ボランティアの方から「子どもさんから元気をもらっています」という声を聞いている。今後もやりがいを感じてもらえるように工夫したい。

■ 地域とともにある学校の在り方を考える（仰木中学校）

■ 大津市
■ 活動名
仰木中学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校
仰木中学校・仰木の里東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	27 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

校区の大半が造成 20 年程の新興住宅地のため、地域の住民間のつながりが比較的弱い。そのため子ども達も、家族以外の大人との関係が希薄になりがちである。そこで、いじめ対応型の本事業を活用し多様な経験を持つ善意の地域ボランティアの方々と学習や作業を通して、様々な価値観や生き方に直接ふれ、自分以外の考え方や価値観への理解や共感ができるきっかけを得ることを目的とし、学習支援、図書室運営支援、園芸、文化祭、道徳ゲストティーチャーなどの活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

○学習支援

1 学期は、テスト前の補充教室、総合体育大会時のプリント学習補助を中心に活動をした。期末テスト以降に 1・2 年生で数学の授業補助を数回実施した。夏休みには、1・2 年生数学で補充教室、3 年生で 1 名個別数学補充教室を数日にわたり実施した。2 学期は引き続き、1・2 年生数学での授業補助、3 年生数学での放課後個別教室、2 年生理科の授業補助を実施した。

○図書室運営支援

月～金の昼休みの図書室開室支援に 8 名のボランティアが交代で昼休みの図書室開室の見守りをしている。また、生徒会の図書常置委員会（ミーティング）にもボランティアに参加してもらい、図書委員の生徒との意見交換の場を設けた。

○園芸

夏休みに、環境委員、ボランティア参加の生徒と教職員、園芸ボランティア 5 名で花壇作りを行った。その後の管理については、ボランティアに指導を受けながら生徒で維持管理をしている。

○文化祭、道徳ゲストティーチャー、その他

地域の活動団体に文化祭・文化体験コーナーの講師をお願いし、生徒の文化体験と交流を行った。

○仰木太鼓体験コーナー・・・生徒も多く参加し盛り上がった。

○切り絵コーナー・・・講師が何種類の切り絵の菜見本を持参、指導した。昨年の実績もあり好評で参加者も多かった。

○囲碁・将棋コーナー・・・毎年参加してもらっているため、生徒とのコミュニケーションもとることができた。

○写真の撮り方教室・・・パネル展示。「上手な写真の撮り方教室」では、参加者が丁寧に指導を受けた。活動後は、校長室で談話の時間をとった。ボランティア同士の会話も弾み、交流ができた。また、教師とも話ができて、相互理解に繋がったように思われる。

○道徳ゲストティーチャー・・・ボランティアに現在までの自身の人生や、なぜボランティア活動をしているか等を話していただいた。保護者の参加もあり好評であった。

■ 実施に当たっての工夫

ボランティアからの意見はできるだけ早く学校に伝えるようにした。又、具体的対応についても、どの程度できるか、難しいのかな等を伝えるように心がけた。

■ 事業の成果

それぞれの活動で意識して、ボランティアと生徒、ボランティアと教職員とのコミュニケーションをとることに重点をおいた。そうすることでいろいろな問題点も浮かびあがってきた。その問題点を少しずつ改善していくことで活動内容も改善していくことが出来た。<例>学習支援の形態の変化：テスト前補充授業 ⇒ 授業補助 ⇒ 個別補習 道徳ゲストティーチャー

図書開室支援ボランティアをはじめ、定期的に来校してくださる方が増え、多くの目で生徒を見守ることができた。

■ 事業実施上の課題

活動が 2 年目に入り、ボランティアから種々の意見が出るようになってきた。それに対応していくための校内のシステム作りがなかなか進まない。また地域コーディネーターの勤務に余裕が無く、新規ボランティア募集の広報があまりできなかった。



【学習支援の様子】



【花壇づくり】

地域とともにある開かれた学校づくりをめざして（仰木の里東小学校）

■ 大津市
■ 活動名
仰木中学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校
仰木の里東小学校・仰木中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	33 人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

校区は、造成から20年程度の新興住宅地であり、地域的なつながりという点においては弱い地域である。そこで、本事業を活用し多様な経験をもつ善意の地域ボランティアの方々と学習や作業を通して、共に活動する時間をもつことで、自分や家族以外の様々な人の価値観や生き方に直接ふれあう経験ができ、多様な価値観への理解や共感できる力を育てることでいじめをなくすことにつなげる。

■ 特徴的な活動内容

○ 広報活動

本事業の主旨の説明とボランティア募集を呼びかけることを目的に「ボランティア便り」を発行し、PTA配布・地域内回覧をする。

また、6年生児童に学校ボランティア募集ポスターを書いてもらい、優秀作品に賞状と賞品を授与して事業の浸透と広報活動の活性化を図った。

○ いっしょにおそうじボランティア

9月より、毎月第3水曜日に昼休み後の清掃時間に子どもたちと一緒に「そうじ」をしてもらう。毎回、同じ学級に入ってもらうため、子どもも慣れて親しく会話ができるため好評である。

○ 授業援助

- 1年生・・・サツマイモの調理実習補助
- 2年生・・・九九の聞き取りとピアニカ学習の補助
- 5年生・・・家庭科ナップサック作りのミシン補助

○ ゲストティーチャー

- 3年生・・・「名人になろう」
 工作・手品・将棋・茶道・読み聞かせ・コマ回し・英会話
 手話・手芸・百人一首
- 4年生・・・「戦争体験の講話」



【手芸が終わり、手遊びを教えてください】



【お茶を入れる作法を教えてください】

■ 実施に当たっての工夫

広報活動により、PTAや保護者、地域の各種団体の方々に本事業の実施が認識されはじめ、団体以外の個人の登録もいただけるようになった。

■ 事業の成果

授業援助や掃除の時間に地域の人が入ることで、地域の方からは学校へ協力することへの敷居が低くなり、気楽な気持ちで学校を訪れていただけるようになった。また、学校の方も教師の手が足りていないところを援助していただけるので助かっている。この事業を継続していけば地域の方に任せる部分が増え、教師が子どもと向き合う時間を今まで以上に増やすことにつながると思われる。

■ 事業実施上の課題

- 授業援助にもっと多くのボランティアさんが入って来られるように、学校がどの学年のどの場面で必要であるか明確にしておく必要がある。
- 年間計画の中で、ボランティアの必要な行事がいつ頃、どのような活動があるかなど、登録されているボランティアの方々に年度当初にお知らせできるようにしたい。
- 広報活動を継続し、登録ボランティアの数を増やしたい。
- 本校では、コーディネーターが来校される日が週1日と限定されていたために、学校の窓口や担任と連絡を取り合うことが難しかった。

■ その他

○ 継続することが実績を上げることにつながるの、できるだけ長年にわたって事業が継続されることを願いたい。

■ 自己存在感・肯定感を高めるボランティア活動 ～地域行事への生徒参加の促進～

■ 大津市
■ 活動名
田上中学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校
田上中学校・田上小学校・上田上小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	18 人 14 団体
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要（右ビジュアル図参照）

「いじめ対応型」事業の主たる目的は、地域ボランティア等多くの眼で子どもを見守り、いじめの未然防止や早期発見に資することである。本校はその主旨に沿い、地域の教育力を学校教育に活かしながら学校教育目標の具現化を図ること、地域の方々とのふれあいや学習を通して豊かな心を育むことをねらいとして、次の3つの取組を展開している。

- ①「ボランティアリストの作成・整備」と実際の支援活動の拡大
- ②中学生の「地域行事へのボランティア参加」の促進（主眼を置いている）
- ③（この事業を切り口に）実効性ある小中連携の推進（平成26年度から）

■ 特徴的な活動内容

- ①各校の必要性に応じた支援ボランティアの募集（右下図参照）
→中学校は平成25年度からの取組であるが、田上・上田上小学校は今までに築いた地域との関係に加え、当事業でさらに支援の幅を拡大しようと取組んでいる。
- ②中学生の地域行事へのボランティア参加（参画）の促進
→7月から12月の間に、19の地域行事等へのべ230名中学生が参加。
- ③小中連携の観点から、地域行事等の中で、中学生と小学生がふれあう場面を設定する。
→英語招待授業の開催や中学校合唱コンクールへの6年生招待
→2小学校運動会への中学生の参加（対抗リレーに出場）
→学区文化祭における中学生ボランティアの幼児・児童へのクラフト制作等の指導
→田上小学校ふれあい創作まつりにおける「中学校ブース」の開催
- ④田上中学校だよりボランティア特集号の発行（平成27年1月発行を予定）

■ 実施に当たっての工夫

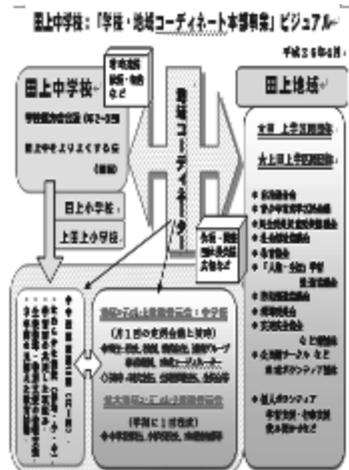
- ①コーディネーターによる地域諸団体（2学区）への当事業の説明会を開催
- ②中学校における「地域コーディネート推進委員会」の開催。
→中学校の方針や事業の進捗状況及び個々の取組の成果と課題を検証するため、年間5回程度開催を予定。昨年度から組織し、本年度は11月末に第3回目を開催。
→校長・教頭・コーディネーター・研究主任・連携グループ教職員8名の12名で組織。
- ③小学校を交えた「拡大地域コーディネート推進委員会」の開催。
→各校の取組を情報交換するとともに、校区で意思疎通を図るために本年度から組織し、年間3回程度開催。

■ 事業の成果

- ①定期的に来校される支援ボランティアが増え、多くの眼で子どもを見守る体制が強化された。田上小では、新たに登録された「中国語の日常会話支援ボランティア」の方が、支援を必要とする子どもの生活に大きな支えとなっていただいている。
- ②ボランティア参加の促進で、認められたという自己肯定感の高まりが自然と子どもを笑顔にし、その笑顔が生徒の自信につながってきている。さらに、認め合いから生まれる自信が豊かな心を育み、いじめ撲滅の基盤となる「他者を思いやる気持ち」を校内に醸成していく第1歩となっている。
- ③子どもが活動への参加を通して、自分たちを育てくれる「地域・人」に目を向ける契機になり、地域諸団体・担当者から「中学校との距離が縮まった」「中学生が参加すると行事に活気が生まれる」などの声を聞くなど、この取組が定着しつつあることは、「開かれた学校づくり」の観点からも大きな成果が見えてきたといえる。

■ 事業実施上の課題

- ①校内コーディネート推進委員会を中心に教職員の理解を拡大し、さらに全校体制で取組む必要がある。そして、いじめ対応については、本年度以上に学校協力者会議と連動した運営が求められる。
- ②主体性を育むため、子どもが参加から参画する機会を設定することが重要である。
- ③毎月1回の小中連携推進会議は定着してきたが、さらに校区内小学校と連携して支援ボランティアの拡充や中学生と小学生の交流場面の設定に努め、滑らかな接続や校区内の活性化を図ることが大切である。



【上田上小 読み聞かせボランティア】



【田上小運動会に参加した中学生】

彦根市における学校支援地域本部の取組（いじめ対応型）

持続発展教育（ESD）持続可能な社会・次代を担う彦根の子どもを地域のみんで守り育てます。

■ めざす姿

○教員が子どもと向き合う時間の確保など多様な形態の教員支援を可能とするため、地域全体での学校教育の支援、および学校と地域との連携体制の構築を推進する。さらに地域住民が自らの経験や知識を活かす場として、自己実現や生きがいつくり、地域の人材活用・活性化と地域づくりにつなぐ。また、いじめ対応の視点による活動支援により、いじめの早期発見・早期対応・抑制力を高める環境整備をする。市内7中学校区地域教育協議会（いじめ対応型/中央・稲枝 従来型/東・西・南・彦根・鳥居本）で実施する。

■ 本年度の活動

○平成26年度の取組重点（継続） 地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施

○実行委員会の開催（年3回）

構成委員：15名（各中学校長、地域コーディネーター、彦根PTA連絡協議会会長）
事務局（生涯学習課長・主幹・学校教育課長・主査）

第1回：8月4日（月）事業説明・実践交流

第2回：11月26日（水）研修会・実践交流

第3回：3月 実践報告・振り返り

○学校訪問 11月7中学校区訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

○平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰

12月8日（月）文部科学省東館3階講堂（東京都千代田区霞が関3-2-2）

被表彰団体：彦根市学校支援地域本部

○特徴的な活動内容【いじめ対応型】

- ・地域支援協議会の開催・ボランティア募集や広報活動、広報発行
- ・支援ボランティアの交流会
- ・保幼小中学校で、読み聞かせボランティアの活動推進（読み聞かせ研修会）
- ・登下校時の安全指導
- ・畑や花壇の栽培支援、中庭の剪定等の支援
- ・中学校の部活動指導支援
- ・各小学校の地域学習、体験学習の活動支援
- ・いじめ対応／登下校の見守り、部活動、地域学習、学習活動時に、いじめ防止の視点で児童生徒を観察し、いじめの芽を摘む声かけや学校との連絡・連携をとる。



【サマーフェスタ in 稲枝】

■ 本年度の成果

○学校内外で、子どもと接する機会、会話が多くなり、豊かなかわりができることで気になる子への対応ができた。

○工夫された活動、体験的な活動の中での、子どもへの声かけ等により、子どもたちの自信・自己肯定感が高まった。

○各小中学校で地域ぐるみのパトロールが組織的に行われ、子どもたちの見守りができ、いじめ事案等の抑止力になっている。学校との児童生徒にかかる情報の共有ができた。

■ 今後の課題

○放課後学習や土曜学習など、学力を高める学力補充の取組の開発・充実

○学習支援ができる支援ボランティアの確保（地域の人・教員OB・学生等）

■ その他

○彦根市では、ESD（持続発展教育）教育、持続可能な社会を担う人づくりを進めている。さらに「学び合い・つながり・活かす生涯学習のまちづくり」を進め、豊かな地域コミュニティの創造にも力を入れている。平成25年度末の本市社会教育委員の会議の提言の中でも、この学校支援地域本部事業の大切さを強調していただいているところである。今後、コミュニティスクールとの一体化を視野に入れた取組・地域で学校を支える仕組みづくりについても検討していきたい。

学校と地域を結ぶSCHOOL SUPPORT（中央中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
中央中学校区支援地域本部・中央中学校（いじめ対応型）
■ 関係する学校 中央中学校 金城小学校・平田小学校・金城幼稚園・平田幼稚園

コーディネーター数	3 人
ボランティア登録数	40人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

インターネットの普及で情報が子どもたちの間で急速に進むなか、人間関係構築力の脆弱化や生活体験の不足などが問題になっている。本校においても低学力やいじめ、虐待などの問題もある。子どもたちを健やかに育むためには、学校と地域が連携を図り地域ぐるみで子育ての体制を整えることが大切である。

本事業は、今年度4年目を迎えるが、地域の多彩な人材を学校教育に活用することでいじめなどの問題に対応し、学力向上や体験的な学習、環境整備作業等を行うことで学校教育の充実を目指して活動を展開している。

■ 特徴的な活動内容

- ・人権教育地域ネット事業の指定のもと、校区内で幼小中連携に取り組んでおり、本事業も金城小学校と平田小学校、金城幼稚園、平田幼稚園とともに協議し、協力して事業を進めている。
- ・事業の充実を図るため、昨年6月には校区全戸にチラシを配布し地域住民への周知徹底が図れ、本事業が認知されてきた。地域コーディネーターやボランティアの方からの積極的な発言やアイデアを取り入れ、学校を支援する輪が広がれつつある。本年度も、昨年まで実施してきた「学校支援地域本部事業」に「いじめ対応型」を加えて一つの枠組みに捉えなおす中で、より充実した教育支援活動を目指し話し合いを重ねている。
- ・本年度は、コーディネーターと各校の担当者会を隔月に設定し各校地域の実態把握、事業の計画、予算配分などを話し合い、進捗状態や予算の執行状態、問題点などを話し合っている。前年から行っているが、いじめに関する実態および生徒の様子について、コーディネーターと情報を共有する中で、今年度も重点取組を「いじめの未然防止と早期発見のための取組と指導体制の充実」としている。
- ・【学校】では、体験的な学習を支援するためボランティアが授業や生徒会活動、部活動を支援する等の活動が始まっている。（総合的な学習の時間の職業講話の講師、美術科の作陶体験、和菓子デザイン学習・茶道体験学習・美術部の額縁制作補助など）その活動を通して地域のボランティアの方々とふれあい、見守りをしていたい。
- ・学校の現状として、いじめに関する重大事案の報告はあがってきていない。しかし、ネットトラブルやからかい等心配されるケースは見受けられるので日頃から生徒の観察、定期教育相談やアンケートを実施し早期発見・早期対応に努める。落ち着いた校内環境づくりのため、普段から教師が、授業・休み時間を中心に校内を巡視し、生徒の気になる言動などを見逃さない。また、教師間において緊密な連携をとっている。
- ・地域ボランティアの方に見守りを行ってもらうように、また、開かれた学校づくりを進めるため、本年度は授業参観日を増やし、参観時間を2時間連続にする日を設定している。また、フリー参観日を毎月1週間設けるなど地域の方に中学校に来てもらうやすい環境をつくっている。PTAでは清掃活動を行いながら校内巡回をする活動を行っている。
- ・【地域】では、小学生下校時の交通指導の際、中学生に対しても積極的に声かけや挨拶をすることで子どもたちの安心（いじめ・悩み）・安全の確保をはかっている。
- ・「学び育ち教室（Learning Links（学びの絆）教室）」平成25年3月からスタート。対象は学びたい気持ちはあるが機会に恵まれない生徒で、現在中央中生7名が学んでいる。運営は滋賀大学生、聖泉大学生、県立大学生などである。場所は中地区公民館で月曜日19:00～21:00に開催している。

■ 実施に当たっての工夫

幼・小・中の連携の試行・本事業の認知度を高めることとニーズの掘り起こし・ねらいに適したボランティアさんの人選と確保

■ 事業の成果

- コーディネーターと校区内の幼・小・中の担当者の定期的な調整会の設定。事業の充実につながっている。
- 体験的な学習の支援の充実（総合的な学習の時間の支援、稲作体験学習の支援、ふれあい遠足の交通指導、職業講話の講師、ウォークラリーの支援、美術部の額縁制作補助など）
- 安心・安全パトロール…登下校時に子どもへの声かけおよび見守り。挨拶を交わせる中学生が増えてきた。
- 環境整備等の課題解決（残土処理、除草作業、体験農園の手入れ、銅像（拓心像）の修理、自転車庫のペンキ塗り、ウサギ小屋の修理、樹木の手入れ・剪定など）
- 子どもたちに身につけさせたい力（挨拶等）を育成できるよう、様々な場面においての声かけ

■ 事業実施上の課題

今後、さらに本事業に対する教職員の授業や行事への計画的な導入と地域の方々の理解と協力を高め、支援プログラムを多様に仕組みながら、定着と活性化を図っていききたい。特に、図書室の常時開館に向けての図書館（司書）ボランティアの常駐や、放課後学習会のための学習支援ボランティアの人材確保が課題である。



■ 心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり（平田小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
中央中学校区支援地域本部・平田小学校（いじめ対応型）
■ 関係する学校
平田小学校・金城小学校・中央中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	37 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

- ①毎月第2水曜日。子ども達の活動場所の整備。（中庭を中心とした剪定作業。遊具のペンキ塗り。学級園の整備）
- ②朝読書の時間の読み聞かせ
- ③生活科、総合的な学習の時間、社会科のゲストティーチャー
- ④全校ふれあい遠足の引率、立哨

■ 特徴的な活動内容

①活動場所の整備

昨年度より、定期的に来校していただき、子ども達の活動場所の整備をしていただいている。毎月1回を原則にしているが、10月、11月は2回集まっていた。本校の中庭は、様々な木が植えられ、理科の学習の観察材料として、またかくれんぼをしたり、鬼ごっこをしたりして遊ぶ場所として最適な空間となっている。しかし、開校当時から植えられている木が多く、手入れがされていない状態であったので、枝がはり、子ども達にとって危険な箇所も見られた。そこで、今年度は、特に大きな木で子ども達の死角となるような木、子どもの身長より下にある枝等を中心に伐採したり、剪定したりしていただいた。



②朝読書の時間の読み聞かせ

読書ボランティアに登録いただいている5名の方が、毎週水曜日の朝、読み聞かせに来てくださっている。

③生活科、総合的な学習の時間、社会科のゲストティーチャー

ボランティアの方の中には、和菓子職人さんやスクールガードリーダー、彦根市ボランティアガイドさんなど、多才な方が多い。各学年の学習に応じてゲストティーチャーとして招き、学習に協力していただいている。

④全校ふれあい遠足の引率、立哨

学校支援本部事業が開始されてから始まった行事である。地域を知るために、たてわり班で地域を歩いている。毎年、数多くのボランティアさんに引率・立哨を協力していただいている。各班、担当教師とボランティアさんが引率し、子ども達の安全を守るとともに、歩きながら交流を深めている。子ども達とのふれあいとともに、教師も地域の方を知る大事な行事となっている。



■ 実施に当たっての工夫

年度初めに、学校支援地域本部事業の総会を開き、できるだけわしく今年度の支援内容や支援時期を連絡するようにしている。どの活動も、コーディネーターの方が窓口となってくださっている。登録されている方のことをよくわかってくださり、どういった支援をしてほしいかを連絡すると、支援者の調整をしてくださるのが大変ありがたい。そこから支援していただく方との打合せに入るが、いつでも、快く活動支援を引き受けてくださっている。内容を細かく打合せしておくことで、学習や活動のねらいや当日の動きを知っていただき、子ども達に寄り添った支援をしていただけるように心がけている。

また、活動される日は必ず全職員に知らせ、担任から子ども達に何をしていたらいいのかが伝わるようにしている。お世話になっているのだという気持ちを持ち、「ありがとう」という言葉が自然に子ども達の口から出てくるように、声をかけている。また、活動の様子を新聞にして掲示し、子ども達の目にふれるようにもしている。

■ 事業の成果

学習や活動の支援をしていただき、活動しながら子ども達とふれあっていただくことで、子ども達の日常の姿を知っていただけることが一番の成果と言える。ボランティアの方は、地域のいろいろな団体にも所属されている方が多く、地域での子どもの姿、学校での子どもの姿の両方を見ていただいている状態である。活動の後の反省会では、子ども達の様々な表情を話題にしてくださっている。気にかかる子の様子も教師とは違った視点で見てくださることが、より深い児童理解につながっている。

■ 事業実施上の課題

登録していただいているボランティアさんは37名。高齢の方も多く、80歳を超える方も登録していただいている。実際に活動していただいているのだが、体調をくずして参加できないと連絡いただく方もある。活動が広がってきているだけに、この高齢化の問題と、これからどのようにボランティアさんを増やしていくのが今後の課題である。

■ 学校と地域の「豊かなつながり」(金城小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
中央中学校区支援地域本部・金城小学校 (いじめ対応型)
■ 関係する学校
金城小学校・平田小学校・中央中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	113人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

子どもと地域、そして、学校と家庭や地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの教育活動の充実と、人権が守られ、安全で安心な学校づくりをめざして本事業に取り組んでいる。

本事業が開始される以前より、地域で「健やか金城の会」が結成され、子どもたちの健全育成や防犯見廻りなどで、学校に支援をいただいていた。その活動を本事業にもつなげて、継続発展して取り組んできている。

■ 特徴的な活動内容

① 登下校の安全パトロールとあいさつ

金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、子どもたちの登下校の安全を見守り、「おはよう」「おかえり」と声をかけてくださっている。ボランティアの方々とあいさつを交わすことで、人との関わりの基本であるあいさつができる子どもの育成にもつなげている。また、登下校中の子どもの様子を逐一知らせていただき迅速な子どもの実態把握に役立っている。

② 学習支援

例年、特別支援学級の大藪かぶらの栽培、3年生の昔のあそびと昔のくらし、5年生の米づくりでは、ゲストティーチャーとして学習の支援をしていただいている。また、本年度は4年生の野外活動(オリエンタリング)時の安全確保のために力を借りました。その際には、必ずあいさつをすることはもちろん、お礼の手紙を書いたり、事後の活動に招待したりするなど、つながりづくりを大切にしている。

③ 読み聞かせ、影絵

年間を通して、読み聞かせボランティアの方に、水～金曜日に絵本の読み聞かせを、10月の全校集会では影絵を行っていただいている。豊かな情操の育成につなげるとともに、12月には、人権週間にちなんだ絵本(「へいわってどんなこと」浜田佳子著)を選んでいただき、子どもたちの人権意識の向上といじめ防止に役立っている。

④ 感謝の気持ちを伝える

6年生の児童は、金城見廻り隊の方々へ、暑中見舞いのはがきを出し、日頃お世話になっていることへの感謝の気持ちを伝えている。秋にはPTA行事とタイアップして5、6年生の児童が日頃の感謝の気持ちをメッセージカードに書いて伝える取組を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

毎月、第3水曜日を学校支援本部事業の定例会に設定し、活動内容の計画と確認を行うようにした。

また、職員室前廊下にボランティアの活動を紹介する写真を掲示することで、子どもたちや保護者に活動内容を目に見える形で知らせるようにした。

■ 事業の成果

子どもの様子が気になることがあれば、ボランティアの方から学校へ、すぐに連絡をいただいた。互いに連携をとることで、校内では気づかない子どもの情報を得て、児童理解と指導に役立てることができた。

また、子どもたちは、地域のさまざまな人たちによって守り育てられていることを感じ取っている。このことは、ボランティアの方と笑顔であいさつを交わしたり、親しく話したりする子どもたちの姿からもうかがえる。このように、人の温かさや親切に対して感謝する心を育てる、一つのよい機会とすることができている。

■ 事業実施上の課題

本事業の取組が、子どもをはじめ、保護者や地域住民に周知できていないことが課題である。今後は、支援の取組の広報活動を行う必要がある。そのことを通して、ボランティアの方のやりがいが高めるとともに、子どもたちが、さまざまな人に支えられ大切にされていることに気づき、人を大切にしようとする心情をより一層高め、子どもから進んであいさつをする行動化へとつなげていきたい。

また、子どもたちとボランティアの方のつながりをより一層深めていく取組を行うことも課題である。子どもたちが、ボランティアの方に気軽に話すことができ、悩みごとを聞いてもらえる関係を築くことができれば、いじめ防止対策のひとつの手だてとなると考える。



■ 地域挙げての協力による学校支援（稲枝中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
稲枝中学校支援地域本部・稲枝中学校（いじめ対応型）
■ 関係する学校
稲枝中学校 稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校・稲枝東幼稚園 みづほ保育園・ふたば保育園・ことぶき保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	97 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

「稲枝はひとつ」の考えのもと地域を挙げて支援を行い、稲枝地区の保育園、幼稚園、小学校、中学校の子どもたちが立派に育つようにと願い、連合自治会をはじめ各種団体で組織する「学校支援協議会」が中心となり学校・園支援活動を展開している。現在 97 名の登録ボランティアの皆さんが「読み聞かせ」をはじめ、登下校見守り、校地内の環境整備、地域学習の講師、野菜花づくりの指導、学習の補助支援などに、学校や園の要望に沿いながら、さまざまな活動を展開しています。本事業は 7 年目になりますが、昨年度から「いじめ対応型」の支援として、校・園内はもちろん登下校中や地域での児童生徒に対してきめ細やかな寄り添い支援を行っている。

■ 特徴的な活動内容

《読み聞かせ研修》

事業の当初から各校園では、読み聞かせ活動が実施されている。いじめの防止には、何よりも「人を思いやる、自分をふりかえる」心の陶冶が大切である。読み聞かせは、子どもの心の陶冶と創造性や想像性を養い、一日の学習がさわやかにスタートできるということからどの校園でも重要視されている。そこで、学校支援協議会では、読み手のスキルアップを目ざして、毎年、読み聞かせボランティアさんや先生を対象に「読み聞かせ研修会」を実施している。今年度は、市教委生涯学習課より講師を紹介していただいた。参加者からは次の様な感想があり、今後も継続しなければと考えている。

- ・とても具体的なお話で、大変わかりやすく、心がほっと温まる研修会であり、たくさんの本を整理した形で紹介され、これからの読み聞かせに大変役に立つ素晴らしい研修会でした。
- ・子どもたちと本との出会いは、とても大切であり、本は子どもたちの心を豊かにすると改めて思うことができました。一日がさわやかにスタートできる内容であったり、季節やその時期にあった話題の内容であったり、子どもたちにぴったりの本を選び読み聞かせをしていきたいです。ぜひ、ブックトークを体験してみたいと思いました。いろいろと勉強になりました。ありがとうございました。

《中学生の地域貢献活動》

「地域の子どもは地域で守り育てる」のスローガンのもと学校支援活動を行っているが、子どもが学校や家庭だけでなく地域の中で生きていることを知り、その存在感を感じ取ることは重要なことである。このことが子ども自ら地域活動に参加しようという意欲になり、将来地域の担い手に育つものと考えます。

稲枝地区では、「サマーフェスタ in 稲枝」と銘打って夏祭りが数年前から復活した。夏祭りの会場をイルミネーション（12 万球の LED 電球）で飾っているが、それを稲枝中学校の生徒会や美術部等多くの生徒が原画作りから電球の飾り付けに参加した。生徒達に、夏祭りを自治会や青少年育成協議会等の大人の中に混じって作り上げているという自尊心が生まれている事は確かである。また、稲枝駅前環境整備活動で、生徒会や有志の生徒がプランター作りから花の苗植えや花の世話をしてきた。

このような活動を通して、生徒は作文に「地域の人から学び、地域に貢献したことの成就感」を記している。生徒同士が協力し合い成就感を味わう中では、いじめにつながる要素はどこにも見当たらないことは確かである。

■ 実施に当たっての工夫

どの活動にも言えることであるが、事前の準備と打合せが肝要である。中学校と公民館や稲枝地区諸団体の打合せや連携がスムーズに進められることが大事である。

■ 事業の成果

- 学校と地域の協力体制が一層深まってきた。学校側の学校支援担当の先生や管理職の先生から支援の要望等を忌憚なく聞くことができ、地域の中の学校としてどうあるべきなのかをじっくり話すことができています。このことが、いじめ対応などにうまく機能していると考えられる。
- 8校園それぞれがニーズに応じた学校支援活動を実施しており、定着してきている。
- 今年度から、長年の課題であった中学生への放課後学習支援が、3年生の部活動終了後の生徒に限られているがスタートでき、一歩前進した取り組みとなった。

■ 事業実施上の課題

- ボランティアの高齢化と固定化が見られるので、新しいボランティアを募ることが大事である。そのためには、地域に本事業の一層の衆知を図らなければならない。また、学校として本事業に関わる支援プログラムを計画的に構築し、学校支援を要望することも必要である。



子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動（稲枝東小学校）

■ 彦根市
■ 活動名 稲枝中学校区支援地域本部・稲枝東小学校（いじめ対応型）
■ 関係する学校 稲枝東小学校 稲枝中学校・稲枝北小学校・稲枝西小学校・稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・稲枝ふたば保育園

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	20人
開始年度	平成20年度

■活動の概要

本校区にはJR稲枝駅があり、近年、駅周辺地域の開発が進み、新興住宅地が増えつつある。それでも校区全体から見ればまだまだ農地が多くを占めており、彦根市の米どころの一角を担っている。

そのような校区で子どもたちは生活をしているものの、何らかの農作業を実際に経験している子は僅かである。子どもたちの生活圏内に豊かな自然や農地が広がっており、そこから学ぶ機会は十分あるはずなのだが、それらが生かされていないのが現状である。

そこで、本校では、地域の自然や歴史等に学び、自然や地域、そこに生きる人の命を大切に考える活動を『地域の力』をお借りして推進している。

■特徴的な活動内容

昨年度に引き続き、5年生の総合学習の一つとして、『米作り』に取り組んでいる。地域のボランティアの方々の協力を得て、田植えや稲刈りなどの体験活動を実施している。

田植えでは、裸足で田んぼに入り、土に足を取られながらも意欲的に苗を植える姿が見られた。稲刈りでは、各自が鎌で刈り取った稲をコーディネーターの方や教師に満足そうに見せる姿が溢れていた。児童にとって、自然（植物）の命を感じながら大きな達成感を味わうことのできる貴重な時間となった。収穫した米は、精米をして給食の主食として全校児童がいただいた。昨年度は、東日本大震災の復興支援の一つとして、精米した米を東北地方にも送っている。



また、収穫した米を米麴にして味噌作りにも挑戦している。自分たちが関わった材料が使われているだけに、熱の入った味噌作り作業であった。

■実施にあたっての工夫

貴重な体験をさせていただいている「米作り」だが、ボランティアさん達の支援・配慮によるところが大きい。また、活動の実施にあたっては、ボランティアさんのほうからアイデアをいただくことも多く、日々のコミュニケーションを豊かにし、学校とボランティアさんの間の風通しをよくしておくことが、活動を活性化させていく基本であると感じている。

■事業の成果

- ボランティアの方々が一年を通して継続的に関わってくださるので、子どもたちの人間関係にまで留意いただくケースも多い。子どもたちの気になる言動については、直ぐさま学校へ情報を伝えてくださっている。
- ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介してくださることも多く、学校支援への熱い思いがボランティアさん同士で受け継がれている。
- 従来の学校にありがちだった「垣根」が低くなっており、地域の方々が気軽に学校へ立ち寄ってくださっている。

■事業実施上の課題

栽培・環境美化・交通安全・生徒指導等でお世話になっている本事業であるが、まだまだ活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、新たな活動を模索していきたい。

■ 地域とともに 学びの充実をめざして（稲枝西小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
稲枝中学校区支援地域本部・稲枝西小学校（いじめ対応型）
■ 関係する学校
稲枝西小学校・稲枝北小学校・稲枝東小学校・稲枝中学校・稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	13 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

新入生が毎年20名をきるようになり、全校児童数が年々減少している。今までどおり、活動を続けていきたいことがたくさんあるのだが、子どもたちや職員だけでは無理が生じてきた。また、子どもたちの視野を広めたり、いろいろな経験や体験をさせたりして心豊かな子どもに育ててほしいと願っているが、交通機関が不便な地どこへ出かけるのにも時間がかかり、あきらめざるを得ないことも多い。

本事業では、たくさんの地域の方々から力をお借りしながらいろいろな経験や体験を通し、子どもたちを心豊かに育てたいと願っている。そして、地域の方とふれ合うことで、ふるさとやそこに住む人々を愛する心を育てたいと願い、活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

○地域をあげての花づくり・・・毎年、春と秋に学校や地域にたくさんの花を咲かせている。特に、学校のメイン花壇やサブ花壇、中庭には、フラワー委員が中心となって育てた花が咲き誇る。その準備として、種まきや土おこし、植え替え、草刈りなど子どもたちの活動時間に合わせて地域の方に協力いただいている。子どもたちが考える花だんのデザインには、いつも、「見守ってくださる地域の方」の存在が表現されている。

○クラブ活動・・・この数年、クラブ活動の内容が固定化していた。子どもたちにいろいろな経験や体験をさせたいと考え、今年度は地域の方をお願いしてみた。その結果、ホッケークラブ・ダンスクラブ（聖泉大学）、吹奏楽クラブ（県立大学）、調理クラブ・手芸クラブ・工作クラブ・茶道クラブ（それぞれ地域の方）を立ち上げることができた。運動会や音楽会などでその成果を披露することもできた。子どもたちの視野も広がり、生き生きと活動する姿が見られた。

○学習・・・「総合的な学習の時間」では、各学年で地域学習を組み込んでいる。3年生では「地域の名人・達人」「昔の暮らし」、4年生では「地域に残るわき水」、5年生では「米作り」「人にやさしい町づくり」、6年生では「町のお宝」「平和学習」である。各活動の中で、たくさんの地域の方に来ていただいて話をさせていただいたり、現地で説明をしていただいたりしている。毎年、学習でもお世話になっているので、子どもたちが、地域の方やふるさとを愛する気持ちを膨らませていることを感じている。

○夏休み補充学習・・・毎年、全学年で行っている。今年度は、学生さんに来ていただいた。子どもたちは、年齢の近い学生さんということもあり、気軽に質問したり話しかけたりしていた。課題についての質問だけでなく、学習全般の悩みや将来のことなども相談している高学年の姿も見られた。

■ 実施に当たっての工夫

地域コーディネーターに、事前に「こんな活動をしたいので」とお願いしておく、その道の達人の方を集めてくださる。基本は、子どもたちと一緒に活動していただくことにしている。

また、私たちがサポートしてくださる地域のボランティアさんがたくさんいてくださることや、どんなことをサポートしていただいているのかを全学年の子どもたちが知っているべきだと考える。そこで、1学期に、全校児童と地域ボランティアさんとの顔合わせを行った。いろいろところで、私たちや私たちの学校を支えてくださっていることを知り、感謝の気持ちを持つ機会としている。

■ 事業の成果

地域のたくさんの方からの声かけがあったり、何度か来ていただく内に親しみを感じるようになったりして、子どもたちは、安心して話しかけたり活動したりすることができた。子どもたちは心を落ち着かせて学校生活を送ることができた。また、新しいことに挑戦できる場もでき、生き生きと活動する姿も見られた。支援していただく内容も様々、年齢層も様々。こうした幅の広い支援者の方がいてくださることもよかった。

このように人とのふれあいを通して、人にやさしくする気持ちが育ち、それが、いじめをしない集団づくりにもつながっていている。きれいな花が咲き誇る学校、地域の方に見守られている学校。このような環境の整った中で育っている子どもたちは、毎日、心穏やかに生活できている。

■ 事業実施上の課題

たくさんの方にお世話になっているにもかかわらず、子どもたちにとっては一部の方や短い交流で終わってしまっている。もう少し、じっくりふれ合う機会を増やし、お世話になった方に気持ちを伝える場も持ちたいと願う。そして、ボランティアの方にとって、「義務感」ではなく、「やりがい」や「楽しみ」になるように心がけていきたい。



ふるさとに誇りをもつ心豊かな「いなむらっ子」の育成をめざして（稲枝北小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
稲枝中学校区支援地域本部・稲枝北小学校（いじめ対応型）
■ 関係する学校
稲枝北小学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝中学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	31人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

稲枝中学校区学校支援地域本部が発足して7年目となった。地域コーディネーターが小学校との連携を大切にしながら、様々な活動を展開して下さるおかげで、いろいろな教育活動において地域の皆さんの力をお借りすることができ、子どもたちの活動がより質の高いものとなっている。学習、環境整備、行事など様々な場で、学校と連携しながら適切なサポートをして下さっている。

①おはなしタイム（隔週木曜 朝8:15～8:30 各教室で読み聞かせ）

- ・おはなしボランティア8名。絵本等の読み聞かせや紙芝居など。
- ・地域の方とのふれあいを深めると共に、豊かな心情を育む意義ある活動である。
- ・学期末には、お話ボランティアの交流会を開催している。

②環境整備活動

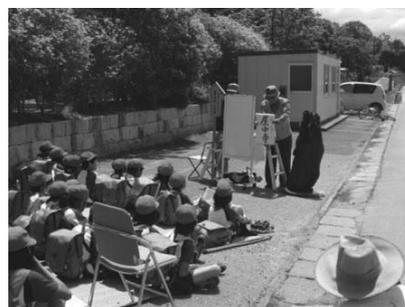
- ・ひょうたん栽培を始め、米作りや農園づくり、花壇づくりなどの支援。
- ・まちづくり協議会の方々による校内の環境整備・・・池の掃除、運動場や砂場の整備、植え込みの刈り込みなど。

③各教科学習活動（ゲストティーチャー）

- ・（3年）米作り・縄跳び体験、（4年）曾根沼干拓について学ぶ（5年）琵琶湖の昔と今、地域のよさを見つけよう
- ・（6年）戦争中のお話を聞こう・ミシン学習補助・書き初め指導・栽培環境委員会への苗作り指導（高学年）など、各学年、学年部での学習活動において、なくてはならない存在となっている。

④登下校見守り（スクールガードボランティア）

- ・下学年、上学年の下校時に共に歩いてくださる。顔見知りとなり、子どもといろいろ話して下さる。子ども同士のトラブルなど、気になる様子を学校に伝えていただくことで、早めの対応につながっている。



■ 特徴的な活動内容

「稲村かるたオリエンテーリング」（平成26年5月21日実施）

今年度で25年目になる、本校恒例の行事。地域の自然環境や、文化財を巡りながら、郷土のよさを知り、自然や文化を愛し、郷土を愛する心を育むことをねらいとしている。縦割り班グループでオリエンテーリングを行うことで、異学年の子ども間での協力と信頼の気持ちを育てることができる、意義深い活動である。今年度は下岡部・上石寺・下石寺方面の「稲村かるた」に詠まれた地点を巡った。各班には、支援ボランティアの方が複数名ついてくださり、安全も確保できた。各ポイントでは、地域の学習支援ボランティアの方による説明を熱心に聞き、到着した下石寺運動場では、清掃活動やコスモスの種まき、集団ゲームなどを縦割り班で行い、異学年の仲間で楽しく活動した。上学年がリーダーとしての力を発揮するよい機会となった。

■ 実施に当たっての工夫

- ・夏休みに次年度のポイントを教職員が巡り、事前研修をする。
- ・地域の方に説明をしていただく。次年度のオリエンテーリングに向けてのお願いもしておく。
- ・ポイントの担当教師が事前に打ち合わせし、お話の内容やクイズの問題を確認しておく。

■ 事業の成果

- ・地域の宝、よさを実感でき、自分のふるさとに誇りをもつことができた。
- ・地域の大人の皆さんと交流することで、つながりが生まれ、他の場で出会ったときに挨拶ができるようになった。
- ・下校時のパトロールや、お話タイム、オリエンテーリングなど、子どもたちと密接に関わる中で、気になる言動や、一人で登校する児童の存在など、家庭環境、人間関係の変化などに気づき、学校へ情報をいただくことで、早めの対応につながった。

■ 事業実施上の課題

- ・本校職員の数が少ないため、オリエンテーリングなどの行事は、学習支援ボランティアなど多くの方との連携が必要であり、事前準備を周到に行う必要がある。時間を確保し、今後も継続して実施していきたい。
- ・年2回、本校では学校支援部会を開催している。学校がどんな支援を必要としているか、また支援部会がどんな支援ができるのかを交流する場である。学校内の行事や各学年の授業のどの場面でもどんな支援が必要かをコーディネートしていただく方に早めに知らせ、広く支援していただけるように計画したい。
- ・地域支援ボランティアの方々が高齢化しているため、活動内容をまとめておき、次の方へ徐々に引き継いでいただく必要がある。

■ 近江八幡市における学校支援地域本部の取組（いじめ対応型）

■ めざす姿

地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりの確立をめざす。そのために次の3点を柱に事業を展開する。

- ①地域の教育力の活性化
- ②教員が子どもと向き合う時間の拡充
- ③いじめを「しない・させない・許さない」ための仕組み作り

■ 本年度の活動

- 5月 2日（金）事務局会議／コーディネーター委嘱式／コーディネーター意見交流会
- 5月 30日（金）コーディネーター、ボランティア研修講座
- 8月 4日（月）学校支援メニューフェア in 近江八幡
（ネットいじめの防止対策について等）
- 9月 1日（月）コーディネーターヒアリング
（現状および課題についての情報収集）
- 9月 25日（木）コーディネーター会議
- 11月 7日（金）コーディネーター、ボランティア研修講座（児童・生徒の状況把握）
- 12月 11日（木）コーディネーター研修会（コミュニケーション力について）／情報交換会



【コーディネーター研修会の様子】

■ 本年度の成果

実施校において「いじめ対応」に特化した「研修会」を開催することにより、教職員の意識向上を図り保護者や地域との連携の大切さや対応の仕方について学ぶことができた。

特に、児童・生徒の様子をきめ細かく観察すること（表情や言動への注意）を意識することにより、クラスや学校内の出来事だけを見るのではなく、学校外におけるやりとりをも見逃さないように努めることが重要であり、地域との連携の必要性を再確認することとなった。

また、いじめの「早期発見」、「早期対応」、「未然防止」といった学校・保護者・地域としての姿勢の確立に向けた取組がなされ、生徒の「いじめ実態アンケート調査」の結果からも徐々に改善されている様子をうかがうことができた。

■ 今後の課題

「いじめ対応研修会」等を実施することにより、教職員と保護者や地域との連携の重要性が再確認されているが、まだまだ、市内全域への広がりには乏しい面も見受けられる。そのため、実施校をモデルとした情報発信を市として工夫を加えていく必要がある。

また、成果として、生徒アンケートの結果から改善は見られたとの意見はあるものの、あくまで減少傾向であり、根絶していない現状を踏まえ「いじめ対応」に関わって、さらに継続した取組を進めていきたい。



【情報交換会の様子】

■ 地域との連携を深め、子どもたちの居場所のある学校をめざして

■ 近江八幡市
■ 活動名 桐原小学校支援地域本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校 桐原小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	125 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

いじめ対応・いじめ対策として、

- ①昼休み・掃除時間・登下校時を中心とし「見守り活動」
- ②ボランティアルーム・図書室・多目的ホール等を活用した「子どもの居場所づくり活動」、子どもたちにとって「居心地のよい空間づくり活動」の両面からの取組を展開する。

■ 実施に当たっての工夫

- ①「いつ、誰が、どんな支援で来られ、準備物は何か、事前の打ち合わせ方法はどのようなのか」などをボードに示すことで計画的に進められるよう配慮した。
- ②ボランティア用にボランティアルームを設けるとともに、職員室に地域コーディネーターの座席を設け、常に打ち合わせが持てるように配慮した。
- ③地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニティセンターだよりにより学校地域支援の様子の紹介や支援募集を行った。
- ④学期ごとに学校支援地域本部事業の様子を紹介する壁新聞を作成し、学校支援の輪を広げる取組を進めてきた。

■ 事業の成果

①昼休み・掃除時間の見守り活動

毎日昼休み、いじめ対策、居場所作りとして地域ボランティアの皆様、学校内や校庭を見守っていただいている。また、掃除の時間、一緒に掃除をしていただいたり、声かけをしていただいている。

②登下校時の見守り活動

子どもたちの安全・安心の登下校のため、スクールガードの皆様、毎日活動を展開していただいている。

③学習中の見守り・支援活動

6年生の野洲・奈良への歴史学習、4年生の日野川フィールドワーク、3年生のまち探検、2年生の駅探検と校外学習などの際に、子どもたちの安全と見学の様子を見守っていただいた。

④ボランティアルーム、図書室、多目的ホールを活用した「子どもの居場所づくり」や「居心地のよい空間づくり」活動

地域の方々が子どもたちと気軽にふれあい、一人になりがちな子どもの遊び相手としてボランティアルームを活用し、子どもたちにとって居心地のよい空間づくりに努めていただいている。

また、図書ボランティアの皆様が、一人でも多くの本好きの子どもを育てるために、図書室の環境を整えたり、図書の修理や廃棄手続きの支援をしていただいた。

多目的ホールでは、毎月1~2回昼休みに、地域の方に自作の木エパズルやゲームを用意していただき、子どもたちにワクワクした楽しい時間を提供していただいている。さらに、毎学期昼休みに、近江クロマティックハーモニカ・クラブの皆様によるすてきな演奏会を開催し、歌と演奏が多目的ホールに響き、心地よい時間をプレゼントしていただいた。

⑤家庭科やクラブ活動など様々な学習に関わった支援活動

5年生では、家庭科のミシンを使う「エプロンづくり」にミシンボランティアとして支援していただいたり、歴史クラブでは、地域の歴史に詳しい方に何度もお越しいただいて地域学習を深めるお手伝いをしていただいた。他にも子どもたちの活動には多くのボランティアの支援をいただき、ふれあいの中で子どもたちの健やかな成長を支えていただいている。

■ 事業実施上の成果と課題

昼休み・掃除時間等の見守り活動の中で、子どもたちのちょっとしたトラブルや毎日の遊びの様子など気軽に伝えていただくことにより、いじめなどの早期発見・早期対応が可能となった。

今後も、見守り活動をしていただく方々の輪を広げるとともに、地域の方々との心の交流・ふれあいができる居場所づくりと地域と学校が連携をさらに進めるために、今後も連絡調整を図っていくことが大切である。



【2年 駅探検の見守り支援】



【ワクワク木エパズル&ゲーム】

■ 学校・保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動

■ 近江八幡市
■ 活動名
安土小学校支援地域本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校
安土小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	135 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

教職員が地域コーディネーターと意思疎通を図りつつ、保護者や地域住民と連携を深めながら、地域の人材を学校に招いたり、児童が地域に出向いたりして効果的な学習をしている。また、地域ボランティアの協力を得ながら、いじめの早期発見、早期対応、抑止力の醸成に取り組んでいる。

■ 特徴的な活動内容

- ・3年「物づくり体験」…信長ねぎ収穫、ちまき作り、せんべい作りの各体験の地域学習を行った。
- ・4年「西の湖学習」… 地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りを行い、環境について学習した。
- ・5年「米作り体験」… 田植え、除草、稲刈り、調理という米作りの一連の活動を、ボランティアの方々の協力を得て行った。
- ・6年「茶道体験」… 地域の施設の和室で、茶道教室の先生の指導により本格的な茶道体験をさせてもらった。
- ・全校「見守り、あいさつ運動」… 日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしてもらった。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんとともに6年や児童会の子どもたちも参加して、校門であいさつ運動が行われた。
- ・教職員「いじめ対応研修会」… いじめ問題に焦点をあて、市の教育委員会から指導主事を招いて事例やその対策のあり方について指導していただいた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・教職員が地域コーディネーターと日常的に関わり、気軽に話せる関係を作っている。そうして、地域の人材を招いたり地域に出向いて学習したりする際に、地域コーディネーターから、多くの有益な情報を得ている。
- ・あいさつ運動には、大人だけでなく、6年や児童会といった子どもたちが参加して活動を盛り上げている。
- ・教職員対象に、「いじめ問題対応」の研修会を行った。学校だけでなく、保護者や地域を巻き込んだ事例やその対応策について、講師からお話を聞き、教職員の指導力向上に努めた。



【地域の大人や児童によるあいさつ運動】

■ 事業の成果

- ・教職員と地域コーディネーターの連携が一層スムーズになることで、教職員の望む適材の地域講師を招いたり、地域での学習を効果的に進めたりすることができた。
- ・あいさつ運動に児童も参加することで、受け身でなく「自分たちもしている」という能動的な意識を持たせた。また、地域の人たちが登下校時に見守りや声かけ活動が続くことによって、子どもと顔見知りになり親しくなって子どもの様子を見ておかしいと思ったら、学校に連絡をしてくださり、学校の指導に大いに役立った。
- ・教職員対象の「いじめ対応研修会」を昨年に引き続いて行った。学校での対応、保護者や地域を交えた対応等、様々な事例をもとに研修を深め、教職員の意識向上とともに、いじめを防ぐ力、早期に見つける力、適切に対応できる力等、資質向上に役立った。



【教職員対象「いじめ対応研修会」】

■ 事業実施上の課題

- ・ボランティアが一堂に介する機会がなかなか持たず、ボランティア同士の意見交流をすることができていない。
- ・学校が知らない幅広い人材が地域に多数おられると思うが、それを学校で十分に把握しきれていない。様々な広報の手段を駆使して地域に発信し、情報収集に努める必要がある。
- ・いじめ対応研修会により、今年度学校の役員をしているPTA役員や地域の役員とは連携しながら取組ができてきているものの、広くPTA全体や地域住民を巻き込んだ取組はまだ十分でなく、さらに力をいれていく必要がある。

■ その他

- ・参考URL（安土小学校）<http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~adusyo/>

■ 地域とのふれあいのなかで、人とのつながり方を学ぶ

■ 近江八幡市
■ 活動名 八幡中学校支援地域本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校 近江八幡市立八幡中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	90人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本校が考えるこの事業の趣旨は、『(1)地域ぐるみで生徒の育ちを支える。(2)豊かな人間性を育み、郷土に愛着と誇りをもつ生徒を育てる。(3)学校が抱える課題への支援を通して質の高い公教育をめざす。』ことである。この事業を進めるにあたり、まずは教職員の意識の共有化を図ることが大切と考え、次のように設定した。

教職員の意識の変革・・・我々は、地域で生まれ、育ち、次代を担う生徒を預かっている。地域のことを学び、また地域に貢献する教育活動を行うことは、公教育としての学校の使命である。学校において、**地域の人材を有効に活用し、地域の方々とふれあいの中で、生徒の人間関係形成能力を向上させる取組を推進することは、いじめや不登校などの学校が抱える課題にも有効である。**

めざす地域連携の形 **学校を支援する地域** ↔ **地域に貢献する学校**

■ 特徴的な活動内容

【授業支援ボランティア】

1年被服実習支援（12月～2月） 2年調理実習支援（6月～7月）
 全学年水泳実習支援（6月～7月） 全学年書道（毛筆）実習支援（10月）
 全学年剣道実習支援（11月～12月）

【総合学習支援ボランティア】

1年西の湖（8月）八幡（10月）フィールドワーク支援 2年職場体験学習
 交通安全指導支援（11月） 3年牧水泳場清掃活動交通安全指導支援（8月）

【学習支援ボランティア】

全学年夏・冬休みの補充教室・質問教室学習支援（7月～8月・12月～1月）



■ 実施に当たっての工夫

- 人間関係を築くのが苦手な生徒が多いなかで、地域の方に授業の中で支援してもらうのがベストと考え事業を計画した。
- 地域担当の職員を各学年1名配置し、時間割上に会議ができる時間を設定する。また、ボランティアさんが集える地域連携室を設置するとともに、職員室に地域コーディネーターの座席を設け、常に交流がもてるよう配慮した。
- 地域全体に浸透するように、学校だより（全世帯回覧・全保護者配布）に、学校支援地域本部の事業紹介やボランティア募集を定期的に行った。また、各コミュニティセンターと連携を密にとり、地域から広くボランティアを募った。
- この取組を進めていく中で、ボランティアと、授業者（教員）との共通理解が大切であることがわかり、事業を開始する前に必ず事前の打ち合わせ会をするようにした。これにより、その後スムーズに活動できている。

■ 事業の成果

- 学校で行っている学校生活アンケートのいじめを問う設問で、『いじめをしたことがある』（1学期末：H24（28%）H25（24%）H26（20%））、『いじめを受けたことがある』（1学期末：H24（22%）H25（17%）H26（13%））と徐々に『いじめと思う』実態が少なくなってきた。
- 授業を受け持つ教師一人では目が届きにくい場面が多々ある。見られている意識が強くなり実習に集中する生徒が増えてきた。また、地域の方が気になる生徒に、先入観なく気さくに声をかけてくださるので、生徒も素直に対応し心の安定につながっている。
- 授業の中でなかなか話さない（話す機会がない）生徒も、何気ない会話で話をする機会が増え、集団に中にいるという所属感を感じるようになり、生徒同士の会話も増えるようになっている。

■ 事業実施上の課題

- 地域コーディネーターとの連携は密に行えたが、実際にボランティアしてくださる方と授業者（教員）の連携がうまくいかず、ボランティアの方がどこまで生徒と接していいのが困っておられた場面があった。また、他の行事等で時間割が変更になることがあり、ボランティアの方に迷惑をかける場面があった。今後には生かしたい。
- 授業のなかで地域の方とふれあいを通じて支援をしてもらうのが良いと考え取り組んできた。今後、放課後など有効活用し、学習や同好会のような形で、個々に地域の方とふれあえる時間を設定し心の安定を図る事業を展開していきたいと考えている。

■ その他

- 学校として積極的に地域貢献を実施している。部活（八中太鼓の会をはじめとして）や生徒個々に各学区のイベント（小学校運動場芝生化ボランティア・託児や障害者施設へのボランティア・共同募金呼びかけ等）に参加している。また、職員も一人年5回の数値目標を立て地域の行事（懇談会・お祭り等）に進んで参加するなど『地域に貢献する学校づくり』をめざしている。

■ 湖南省における学校支援地域本部の取組（いじめ対応型）

■めざす姿

本市においては、「小学校はコミュニティ・スクールへ、中学校は学校支援地域本部の設置を」を湖南省ビジョンとして掲げ、地域による学校支援活動を推進している。地域と学校が一体となって子どもたちを支えていく新たな学校の形は、地域の中での人と人とのつながりと地域や学校への愛着心に裏付けされ、子どもたちが安心して生活し活動できる居場所づくりを実現するものである。子どもたちを温かく見守る地域の人々の存在、できたことや努力を認めてもらった経験は、子どもたちの内面に働きかけ、将来に大きな力となる。

■本年度の活動

- (1) 学校支援地域本部事業運営委員会 6月6日（金）
 - ・ 講話「学校支援地域本部の財政的自立を構想する」
講師 文部科学省 CSマイスター 高木 和久氏
 - ・ 中学校区別分散会
- (2) 学校評議員・学校運営協議会理事・学校支援地域本部委員等合同研修会 1月27日（火）
 - ・ 実践発表（石部中校区小中連携の取組）
 - ・ 講演「第三中学校ピア・サポートの取組」
講師 三原市立第三中学校教頭 原 克幸氏
- (3) 市内地域コーディネーター等研修交流会
【全市】 4月24日（木） 10月6日（月） 【中学校区別】 各学期1回開催
 - ・ 小中連携、小小連携の取組、学校と地域が連携していじめをなくす取組の情報交換

■本年度の成果

・ 活動の意義が浸透

広報紙を発行して地域の方に学校の様子や本事業の取組の様子を知ってもらうように努め、特に毎年継続している活動は、子どもたちや保護者に活動の意義が浸透してきた。その結果、取組み方に工夫が加わり、それぞれの立場で主体的に取組む姿が見られた。上学年と下学年、異校種間で交流する姿には、“よい伝統”が育まれつつある。

・ 子どもに安心感とやる気と自信

子どもが地域の人を知る機会が格段に増えた。声をかけ、励ましてくれる地域の人々は子どもたちにやる気と自信を与える。顔見知りのボランティアさんが関わってくださることで、子どもに安心感と自信を与えたという事例が数多く報告された。

・ いじめを未然に防ぐ

子どもの課題を意識しながら、多様な場で多くの地域の方に子どもの様子を見ていただいている。学校は、ボランティアさんから子どもの様子を聞くことでいじめや子どもの抱える問題に気づき、対応することができている。いじめを未然に防ぐことができたケースもあった。

■今後の課題

- ・ 地域コーディネーターが軸となり、地域、家庭、学校の三者の大人が連携し子どもたちを包み込んで守り育てる環境を整えていく。
- ・ 学校で教師が正しい理解をさせる指導を行い、地域の大人が実際の活動に関わる中でも『大人はみんな同じことを言う』ことで、子どもに正しい社会規範を学ばせる機会とする。

■ 子どもの課題を共有して子どもの支援にあたる岩根小学校支援地域本部の取組

■ 湖南市
■ 活動名 岩根小学校支援地域本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校 湖南市立岩根小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	238 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

本校は、平成19年4月「学校運営協議会理事会」を設置。今日の学校教育の現状と課題について「制度的」「物的」「人的」「教育内容的」の4側面から見直しを実施。平成20年度に「学校支援地域本部事業」を受託し、教育課題の解決に向け、学校では、地域の教育力を生かし、子どもの今日的課題の解決と豊かな学びをめざしている。地域では、自治の豊かさ（ローカル・コミュニティ）および、自己の生活や価値の高揚・受容をめざす豊かな集団（テーマ・コミュニティ）の縦軸・横軸の相互のコミュニティの育成を求めている。

■ 特徴的な活動内容

地域コーディネーターと「ボランティア推進委員会」の委員長、各ボランティアのリーダーが軸となって各学校支援ボランティアを統括。クラブ活動、学校行事や総合的な学習の時間、食に関する指導、読み聞かせ、図書館支援、土曜教室、放課後教室、1年生へ清掃支援等で、学校運営協議会理事会から年度末にいただいた三つの提言の一つである「いじめの早期発見、早期対応の体制づくり」を継続して取り組んでいる。より多くの目で子どもとかわりながら、子どもを見守り、支援していただく中で、子どもの心のつばきやわずかな変化を見逃さず、地域コーディネーターや学校職員に連絡、連携いただく体制をとってきた。

■ 実施に当たっての工夫

地域と家庭と学校とが、子どもの課題を共有して子どもの支援にあたっていること

◇豊かさの中で子どもたちが失った大切なものを取り戻す。

- ・自分で考えて行動できる子、自分のことは自分でできる子に育てる。
- ・失敗を恐れず、失敗から学ぼうとする子、自他の違いを認め合える子に育てる。
- ・子どもを「お客さん」にせず、地域の担い手になるよう育てる。



地域でも子どもが主体的に参加し、学ぶ場をつくっていただいていること

- ・子どもにとって「学校も地域の一部、地域も子どもたちの大切な学びの場」という理念のもと、子どもたちが地域に出て学ぶ場を大事にしている。この中で、「岩根まちづくり協議会」や「岩根地域にホテルを飛ばそう会」の皆さんの力添えをいただき、子どもが主体となって運営する「ホテルまつり」のお店活動の場や、クラブ活動等での学習の成果を地域で開催される「岩根まちづくりフェア」において児童がステージで発表する場をもっていただいている。友だちと協力して取り組んだり、発表したりする機会を通じて子どもの自尊感情を高め、集団での存在感や最後まで成し遂げた達成感や成就感を感じさせている。

■ 事業の成果

- ・子どもの課題を意識しながら、多様な場で多くの地域の方がかわっていただく中で子どもの様子をみていただいている。教室や廊下では見えなかった、いじめにつながるおそれのある事例を見つけ、いじめを未然に防ぐことができたケースがあった。

■ 事業実施上の課題

- ・いじめのない社会の実現に向けて、子どもたちを取り巻く地域、家庭、学校の三者の大人の連携し合い、子どもたちを包み込んで守り育てる環境を整えていくこと。さらに、地域コーディネーターが軸となり地域の大人、保護者、教職員とが共に創り上げることができるよう、今後もいっそう連絡と調整を図っていく必要がある。

■ その他

- ・日頃、子どもとのかかわりで、気になる言動があった時に、支援ボランティア等として、どのようにかわっていけばよいのかについて、講師を招いて学習をしたり、事例を通して「ワールドカフェ方式」で意見交流を深めたりする研修の機会を設定している。



■ 地域と共に子どもたちの「心」を育て、いじめを防止しよう

■ 湖南市
■ 活動名 石部小学校支援地域本部（いじめ対応型） ＜石部小学校学校応援団＞
■ 関係する学校 石部小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	170 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

昨年度より本校では、いじめの防止、早期発見ができるよう、子どもの「環境」作りの活動を行ってきた。子どもたちが地域のボランティアさんと同じ活動することにより、地域の人に目を向けるようになった。そうしていくうちに、次第に「心」の交流がはかれ、ふれあいを深めていった。学習支援だけではなく、地域の中で人と人のつながりを感じられるような活動が大事だと考え取り組んだ。

■ 特徴的な活動内容

○ 「伝統文化」を通してのつながり — 茶道・箏・民謡体験 —

「伝統文化」はその技術や知識を持つ人が、表現・伝承していかなければ受け継がれていかない。しかし、時代の変化とともに、家庭や地域社会において子どもたちが理解したり、経験したりする機会が減っている。地域の方との文化交流を通し子どもたちが伝統文化のよさや豊かさを理解していくことを目的とする。抹茶を点て、箏の音を聴き、民謡に親しみ、情操教育の一環とした。



【一人ずつ箏を体験します】

○ 「人間の心の中」について考える — 「雨降り小僧」 演劇鑑賞 —

PTA親子人権研修会。人を信じながら何十年も待ち続けた妖怪の話から、友達を得て、人としての強さを持つことができたこと、本当の友達の意味、約束を守ることの大切さ、子どもたちが温かい気持ちになり、忘れてはいけない「心」というものを親子で考える機会とした。



【六年生が朗読劇に参加】

○ 親子で「心」を温めあう — 「すきすき週間」 —

スキンシップは、思いやりの心、優しい気持ちが育ち、子どもの成長にとってとても大切なものであると考えている。親子でいつもより少し意識して1週間スキンシップを含めたコミュニケーションをはかってもらう取組を行った。

■ 実施に当たっての工夫

- ・1回きりの活動にならないよう、継続的な活動を続けていただいている。
- ・昼休みの時間を利用して学校応援団室で活動を行っている。活動が行われていないときもピアノを弾いたり、折り紙をしったりボランティアさんとふれあうことができるように、応援団室を開放している。

■ 事業の成果

- ・「伝統文化」を継承したい、広めたいというボランティアさんの思いから始めた活動もあり、やりがいを感じ、子どもとの交流を楽しみにしてくださっている。
- ・「雨降り小僧」を観て子どもの感想では、「友達をたくさん作って、大切にしていこう。」「約束をきちんと守ろう。」「友達に対する言葉や態度に気をつけて、生活していこう。」と、友達に対する気持ちがたくさん書かれていた。保護者からは、「相手の立場になって考えること。心も身体も強くなって、逆境に立ち向かえるように成長してほしいです。」「これからの友達との関わりの中で、この劇を見たときの優しい気持ちを思い出し、お互いを思いやってくれたらうれしいです。」などの感想をいただいた。家に帰ってから子どもと劇の内容を振り返った方もいて、親子で人権を考えるよい機会となった。
- ・「すきすき週間」は、3年目の活動となる。スキンシップの取り方は各家庭で工夫してもらい、親子が笑顔になれる習慣になった。この時期がきたなあと思って家族で取り組んでくださる保護者もいて、活動が習慣になりつつあることをうれしく感じる。

■ 事業実施上の課題

- ・現在のボランティア活動が今後も継続されていくように、教師側とボランティア側の役割分担や目的を明確にしていく必要がある。
- ・「いじめはよくない」と答える児童が多い中、「なぜいじめはいけないのか」「いじめとは何か」の問いに何人が答えられるかは疑問である。「人を受け入れる」、「人に受け入れてもらう」という信頼感を得られるような体験が重要だと考える。

子どもも地域ボランティアも成長する 「みなみっこ応援団」

■ 湖南市
■ 活動名 石部南小学校支援地域本部（いじめ対応型） 〈みなみっこ応援団〉
■ 関係する学校 石部南小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	137人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

- ・ 湖南市立石部南小学校は児童数 296 名。近隣には福祉施設が多くあり、様々な交流が行われている。
- ・ 学習支援や学校ボランティア活動に、地域住民が参加することにより、子どもと顔見知りになり、子どもの実態をつかんでもらえるので、地域でも細やかな目配りができるようになる。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 体育大会で使用するハッピー作りを、地域ボランティアや保護者が一緒に行うことにより、多世代、地域同士の交流が行われる。
- ・ 学校と地域と一緒に合同研修会を行い、学校の現状を知ってもらう。
- ・ 6年生の書写の時間を使い、いじめ防止標語を書いたカレンダーを作成した。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 10月に行われる体育大会に向けてのハッピー作りを、7月から始めて、子どもと関わる時間をたくさんとった。
- ・ ボランティア研修会に多くの地域の方に参加して頂くために、案内の文書を子どもを通じて、早めに配布した。
- ・ いじめ防止の標語カレンダー作成の打ち合わせを、担任の先生と何回も行った。用紙の準備や、ラミネート作業はコーディネーターが行った。
- ・ 毎月1回発行している、みなみっこ応援団だよりに、地域ボランティアさんと一緒に取り組んだことなどを記事にして、石部南学区へ配布している。

■ 事業の成果

- ・ 地域ボランティアさんと子どもと一緒に作業することで、子どもの顔や様子を知らえた。
- ・ 家庭科の苦手な子どもたちに、顔見知りのボランティアさんが関わる事で、子どもは自信をつけられた。
- ・ ボランティア研修会を先生方と地域住民が合同で行う事により、交流を深めることができた。
- ・ 子どもたちが作った、いじめの防止啓発カレンダーを、地域に配布することにより、子どもたち自身も地域のために活動していることを認識できた。
- ・ 毎月発行している、みなみっこ応援団だよりによりボランティアさんの活動内容を掲載することで、地域の方に学校の様子や本事業の取り組みの様子を知ってもらうことができた。
- ・ 地域ボランティアさんは、子どもの顔見知りが増えたことで、スクールガードとして子どもの様子をより注意深く見守ってくださるようになった。

■ 事業実施上の課題

- ・ 地域ボランティアさんに個人情報(守秘義務など)についての研修を行う必要がある。
- ・ ゲストティーチャーや家庭科等のボランティアさん等は、一定の人に偏ってしまう。

■ その他

今年度の新しい取り組みとして、石部南小学校と石部南学区まちづくり協議会との合同宿泊防災訓練を行った。防災訓練は1部、2部、と分けて行われ、

- 1部は、避難訓練、防災講演会、避難所体験、
- 2部は 炊き出し訓練、防災研修、宿泊体験

を行った。学校の避難訓練に地域の方が参加するのは初めてのこと。この日までに、学校長、防災担当の教諭、地域コーディネーターがまちづくり協議会との合同防災会議に参加した。

石部南学区は福祉施設が多くあるので、障がいのある方も地域の方も一緒に体育館へ避難してこられた。

防災授業は、3年生から6年生までは、保護者、地域住民と一緒に、滋賀大学教授・藤岡達也先生の防災に関する講演を聞いた。

1・2年生は、講演内容が難しいのではないかと、先生より声があがったので、福島で被災されて、石部に住んでおられる方にゲストティーチャーとして来て頂き子どもたちにお話をいただいた。

防災〇×クイズを取り入れることで、低学年にわかりやすい学習ができた。防災カルタを使って遊ぶことにより、さらに防災意識が高まった。

合同防災訓練は授業参観も兼ねていたので、子どもと保護者、地域住民が一体となって防災教育を受けることができた。



■ 菩提寺北小学校創立 20 周年記念式典 & あすなろカーニバル <<学校と地域の力を集結>>

■ 湖南市 ■ 活動名 菩提寺北小学校支援地域本部（いじめ対応型） <あすなろ応援団活動>	コーディネーター数 1 人
■ 関係する学校 菩提寺北小学校	ボランティア登録数 80人程度
	開始年度 平成21年度

■ 活動の概要

本年は11月に創立20周年の記念式典を開催するにあたり、毎年1月に開催していた、あすなろ応援団活動主催の「あすなろウィインターカーニバル」を前倒しして、「あすなろカーニバル」として同日に開催した。

そして、地域と学校とPTAとあすなろ応援団活動が丸となり、全校生徒参加の活動となった。

■ 特徴的な活動内容

「あすなろカーニバル」は餅つき、模擬店、パザー、クラフト制作、昔あそび、などが催され、全校生徒を縦割り班にして、班長の指揮のもと、班行動を行った。また、5、6年生は模擬店、パザーの運営を大人のボランティアと共に行った。



■ 実施に当たっての工夫

全児童がすべてのブースを確実に回れるようにタイムスケジュールを縦割りによって組んだ。高学年が低学年を、責任をもって行動させること、また、模擬店などの運営に携わりながら、自分は必要とされているのだという自尊感情を高め、それは友達に対しても、尊重する気持ちがさらに深く芽生え、いじめをする素芽をつくらぬ環境を作っていくのにより機会とした。

■ 事業の成果

20周年のお祝ムードが漂う会場で、まさに老若男女が集うものとなった。全校児童、保護者、卒業生、地域のボランティア、民生児童委員、日赤奉仕団、PTA役員、PTAボランティア、あすなろ応援団活動実行委員、教職員など、総勢500人参加の規模となり、創立から20年を経て、着実に地域の学校としての位置づけが出来上がった。子どもたちも地域、学校とたくさんの大人に守られている、自分は必要とされているということを身をもって感じられたと思う。また卒業生の大学生が先頭きって、後輩のために餅つきをしている姿は微笑ましく、大変頼もしく思えた。

■ 事業実施上の課題

今年は、20周年事業ということで、運営費も毎年よりは大幅に計上され、大変盛況に開催されたが、来年度からの体制を今一度考え、子どもたちがさらに自主性をもって運営できるようにしたい。21年目の4月からはコミュニティスクールとして、また新しい歴史が始まるので、地域と学校との協働でより良い菩提寺北小学校にしていきたい。

■ その他

・いじめ対策として、もう一つ取り組んでいるのが、昨年に引き続き「読み聞かせ」による活動である。昨年は着ぐるみ劇をしたが、今年は大型絵本で、ペーパーサートを使い、音楽、効果音をいれ、「やさしい白いぞうのはなし」を上演した。毎回、視聴覚教室が満杯になる。菩提寺北小学校は落ち着いた雰囲気の中で、環境もよく、のんびりとした空気がながれているので、この良さを、さらに伸ばしたい。

・参考URL（菩提寺北小学校） <http://www.edu-konan.jp/bodaijikota-el/>

ふるさと菩提寺の子を育てる会

■ 湖南省
■ 活動名 菩提寺小学校支援地域本部（いじめ対応型） ＜苦っこを育てる会＞
■ 関係する学校 菩提寺小学校

コーディネーター数	2人
ボランティア登録数	214人
開始年度	平成22年度

■ 活動の概要

「苦っこを育てる会」を中心として、昨年度に引き続き子どもたちが活動しやすい過ごしやすい居場所作りを行ってきた。また、「家庭教育支援事業」とも活動を共有し、子どもたちの日常の様子を見守りサポートできるように努めている。

■ 特徴的な活動内容

- ・図書ボランティアを新たに募集し、低学年の保護者が多く登録してくださった。そのおかげで、図書の整理、図書の修繕、書架周辺のポップ作成、季節のコーナー、話題のコーナーなどの図書室での活動をしながら子どもたちの学校生活や、子ども同士の様子を見守ってもらうことができた。
- ・年間を通して異学年交流活動を企画・実施している。その際に高学年が低学年のサポートをすることで、毎年『やさしさ』『おもしろいやり』という気持ちを伝承しつづけている。
- ・本校の宝『裏山』は、子どもたちの学習・遊びの場であり、友だち作りの場でもある。その裏山の整備を「苦っこを育てる会」を中心に地域・保護者とともに計画実施している。今年度は、立ち枯れしている松を中心に約200本を伐採し、多くの地域ボランティアの皆さんの力で運び出すことができた。今後、新たに植樹を進めつつ、学習の森として活用できる展望を持っている。
- ・「家庭教育支援事業」で行った講演会の際に、いじめについても学習できるように子どもをとりまくさまざまな環境についての理解が深まるよう話題を広げ、子どもの置かれている現状について正しく理解し、やがて進学する中学生や高校生をも意識できる内容を盛り込んで啓発を行った。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校司書の活動日にボランティア活動を合わせ、新たな役割を担う不安を解消し、ともに活動し、ボランティアさんのアイデアも組み込んでもらい、徐々に慣れて活動が広がるよう工夫した。
- ・異学年交流活動では、低学年のサポートを高学年がうまくできるよう大人（ボランティア等）が見守り支えている。
- ・裏山の整備は継続的に行う必要があるため、「苦っこを育てる会」の中に新たにグループを設置する。レイカディアの植栽剪定グループや菩提寺きずなの会の皆様の協力を得る。

■ 事業の成果

- ・昨年度、図書室の大改造を行い子どもたちの居場所作りをした。今年度は、明るくきれいになった図書室で、仲良く読書する児童たちの姿を数多く見ることができ、絵本コーナーでは友だちに絵本を読んであげたり、上学年の子どもたちが下学年の子たちと交流する姿を見ることができた。図書ボランティアも図書室での活動を通して親同士の交流ができ、子どもたちの様子をみまもるネットワーク作りにもなった。さらに、十進法分類でレイアウト変更され、カテゴリー見出しが分かりやすくなったことにより調べ学習の図書を探しやすくなるとともに関連図書を探し当てやすくなった。このことで、学校図書館の学習・情報センター機能が大いに発揮されるようになった。
- ・子どもたちの居場所作り（裏山、校内施設）に、地域の団体が参加してくださったり、保護者の協力があつたり、支援事業の活動の輪が広がってきた。活動の輪の広がりは、親しみのある地域の方と子どもたちとのつながりが豊かになり、地域の人々が子どもの教育に携わる契機づくりとなっている。

■ 事業実施上の課題

- ・学校でいじめに対しての活動をしなくても、メディアなどからいじめを助長する情報等が流れてくる。そのことを家庭でも把握し、子どもをどのように正しく導くことができるかを学べる機会を増やしたい。学校で教師が正しい理解をさせる指導を行い、地域ボランティアが実際の活動の場でさらに関わりを重ねる中で、「大人はみんな同じことを言う」ことから正しい社会規範を学ぶ一助となっている。

■ その他

以前から住民が、学校の教育活動に参加・協力してくれている地域である。最近では、地元のお父さんたちのグループが、学校に協力を申し出てくださり、力作業や多くの人手が必要なときに声をあげてくれるようになった。力強いサポーターができ嬉しく思う。



【全校遠足に地域ボランティアも参加】



【図書室で活動中の図書ボランティア】

■ 心のふるさとづくり～育ちあう地域と学校～

■ 湖南市
■ 活動名
水戸小学校支援地域本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校
水戸小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	70 人
開始年度	平成22年度

■ 活動の概要

いじめ対応型として地域ぐるみで学校運営をする体制を整備し、教員と子ども、子どもと地域、地域と学校が育ちあえる関係づくりに努めている。また、50年前に始まったまだまだ新しい‘水戸’という地域の中で、学校が「心のふるさと」となるよう、それぞれが地域・学校に愛着をもち、力を発揮できるような場づくりに力をいれている。

■ 特徴的な活動内容

- ①「心」を育む活動を推進するために、夏休み中の8月21日、職員とボランティアの交流会を行った。「心の根っこを耕そう」をテーマに大人の関わりや発言が子どもの育ちに影響を及ぼす可能性について、自らの経験や考えをワークショップ形式で話し合い学ぶ場とした。
- ②図書ボランティアによる朝の読み聞かせで11月を「いのち」について考える月とし、「いのち・ともだち・こころ」についての本を全学年に紹介した。保護者にはお便りを配布し家庭でも子どもの心に寄り添う活動を啓発している。また、学校司書が勤務していない日にボランティアが図書室に来て、本の整理や子どもたちの居場所となる活動をしている。
- ③保護者とボランティア、地域を対象に「子育て親育ち講演会」を2月16日に開催。地元在住の児童文学者、詩人の野呂 昶氏を講師に招き、昔話から読み取る子育ての方法や人としてのあるべき姿を学ぶ機会とする。

■ 実施に当たっての工夫

- ①日頃忙しい教員とボランティアが対等な立場で話し合い、学べる場となるようなテーマを選んでいる。まだまだ敷居が高いと遠慮するボランティアもいるのであたたかい雰囲気での進行を心がけている。
- ②学年によってとらえ方や理解の仕方も違うので、慎重に本選びをしている。かたよった考えにならないようボランティア同士・教員がミーティングで意見交換をしたり、読み聞かせが子どもたちへのおしつけにならないよう配慮したりしている。
- ③子どもや保護者の現状を伝え、話していただきたいポイントを打ち合わせで共有している。

■ 事業の成果

いじめ対応型として2年目となり、応援団の絆が深まり教員からボランティアに授業へ参加してもらいたいといった提案が多くなり、地域住民の活躍の場が増え、子どもが地域や地域の人を知る機会となっている。また、ボランティアから子どもの様子を伺うことでいじめや子どもの抱える問題について気づき、対応することができている。地域の方々が「子は地域の宝」と言うてくださることは、学校やコーディネーターにとっても大きな励みになっている。

交流会では、気になることや課題についてお互いに話し合うことで活動の内容を見直したり、同じ方向をめざして子どもに関わったりすることができている。また講演会では、身近な地域の方に講師に来ていただくことで、大人も地域への愛着・自信が持てるように感じる。毎年新しいことではなく、同じことを修正しながら続けていくことで応援団・ボランティアの活動が定着しているように思う。

■ 事業実施上の課題

学校側の意向とボランティアの役割、子どもにつけたい力を共有すること、ボランティアの声を丁寧に聞いていくことが大切だとわかっているが、行事が重なるとなかなかその時間がとれていない。参加したくてもできない保護者もいるので、短時間、あるいはピンポイントでも参加してもらえるような広報・工夫が必要。

■ その他

子どもの日常に寄り添うあたたかいボランティアが本校の特徴。大切にされていると子どもが感じることが、思いやりの心を育んでいる。やりがいを感じ活動をしている大人の姿こそが、子どもの育ちを支えている。今後も気持ちよく活動していただけるよう事業を展開していきたい。



【ゲストティーチャーのお話】



【読み聞かせ】